

第8回 高校生国際シンポジウム

2月21日と2月22日の2日間にわたり、鹿児島県で全国の高校生が課題研究の成果を発表する「第8回高校生国際シンポジウム」が実施されました。シンポジウムの様子、発表内容や講評などをご紹介します。



第8回高校生国際シンポジウムの参加校数（見学含む）は合計79校。第6回大会はオンライン方式、第7回大会はハイブリッド方式での開催だったが、第8回大会は久々の完全対面方式での開催となった。2日間で延べ1,500名を超える参加（見学含む）があり、多彩な研究テーマの発表が行われたほか、交流会も感染症対策を施したうえで実施され、活気と情熱にあふれた2日間となった。

今回はスライド発表137件、ポスター発表84件、計221件（総生徒数450名）の申し込みがあり、そのうち書類審査を通過したスライド発表50件、ポスター発表64件、計114件の発表が行われた。スライド発表、ポスター発表ともに各分野において最優秀賞、優秀賞、優良賞が決定され、最優秀発表にはGlobal Link Singaporeへの推薦参加資格が与えられたほか、スライド発表最優秀賞受賞作品の中から決定されるグランプリには、今年度は併せて文部科学大臣賞が授与された。

審査員には（株）オープン・シティー研究所所長 日下部元雄氏、オックスフォード大学日本事務所代表 アリソン・ビール氏、東京大学工学部物理工学科教授 齊藤英治氏など各界を代表する方々が選定され審査が行われた。研究背景や現状の深い理解、リサーチクエスチョンの明確さ、客観性、研究の意

義や独自性の提示、プレゼンテーションスキル、発表者の主体性や貢献度などの観点から評価がなされた。

今回のシンポジウムは先述の通り、久々の全面対面での実施で、活気にあふれたシンポジウムとなった。他校の研究発表や基調講演、各種セッションを対面で直接聴講したり、審査員・登壇者や他校生徒と直に対話・交流を深めたりしたことで、今後の課題研究や進路選択にとって大きな刺激を得た生徒も少なくないだろう。今後、さらに課題研究を通じた自己の発見や主体的な取り組みが重要視される中で、各界を代表する方々からアドバイスをいただけたことや、他校の生徒と交流を深めたことは参加した生徒たちにとって貴重な機会となったはずだ。

| スライド発表の部 | ポスター発表の部 |
|---|--|
| 人文科学・教育分野 社会科学・環境・防災分野 数学・物理学分野 植物学分野 生物学分野 | 人文科学分野 教育分野 社会科学・地域課題分野 環境・化学・数学分野 生物学分野 |

スライド発表

スライド発表の部は、「人文科学・教育分野」「社会科学・環境・防災分野」「数学・物理学分野」「植物学分野」「生物学分野」の5つの分野に分かれて研究発表が行われた。各分野からそれぞれ1組に最優秀賞・優秀賞・優良賞が贈られ、さらに各分野の最優秀賞受賞チームの中から1組にグランプリ・文部科学大臣賞が贈られた。

「人文科学・教育分野」

10組が発表。戦時中の食料や健康、戦災伝承、戦時中の女性化粧の位置づけといった戦争に関するトピックや、言語の乱れや英文理解といった言語に関するテーマ、天守の意匠やコロナ禍がもたらす教育への影響、中絶に対する高校生の認識や考察、日本人の「自己」と「他者」について考察したものや、社交不安障害といったテーマについて発表が行われた。

「社会科学・環境・防災分野」

10組が発表。防災教育や早期避難意識形成についての提案といった防災に関するテーマ、播磨地域の特異点探りや兵庫再生計画の提案、黒潮町の観光資源を活かした旅行客増加策の検討といった地域に関するトピック、タイ王国の農村部の栄養調査の実施・考察や乳幼児連れの親が快適に航空機を利用するには、地域に必要とされる自治会とは、竹害と竹材の需要増加、SDGsといったテーマの発表が行われた。

「数学・物理学分野」

10組が発表。3を底にもつ完全数になるための必要条件、調和数のharmonic seedの一意性といった数学に関するものや、熱で性能の下がらない色素増感太陽電池、自己共振振り子の成立条件の解明といった物理に関するテーマ、サクラの散り方、ボルタ電池の放電後の電解液の色、画像分類の正解率と速度、電車の降車からエスカレーターまでにかかる時間、耐量子暗号を用いた学力試験の秘匿計算処理、顔動画解析による日本語の発話予測といったトピックの発表が行われた。

「植物学分野」

10組が発表。藻の生物利用による物質生産、アオミドロのバイオマスとしての可能性、薬草ドクダミの魚病予防・治療への可能性、アジサイの葉の抗菌性、踏みつけがメヒシバとオヒシバの分布に及ぼす影響、植物の細胞分裂にアロマオイルの香りは影響するのかの調査、スナゴケの大気質改善能力の評価、樹木精油抽出量から生態系サービスの評価、季節と葉の成長によるクマリン量の変化といったトピックの発表があったほか、バナナの茎と綿繊維を用いた除菌ティッシュ用シートの作製といった研究まで幅広い研究が発表された。

「生物学分野」

10組が発表。カルシウムがザリガニに与える影響、開腹手術回避の方法の提案、痛みの想起における不快感情と影響を与える因子についての考察、ギンボシザトウムシはなぜクモの巣に引っかかるのか、クロマルハナバチの雄蜂で生じる倍数化が行動特性に及ぼす影響、ナミウズムシの摂食行動と再生、甲虫で里山の遷移の評価、セミの鳴き声がシロツメクサの初期生育に及ぼす影響、疾患原因となるアミノ酸変異の解析、ゴマダラチョウとヤドリバエの命の駆け引きといったテーマの研究が発表された。



ポスター発表

ポスター発表の部は、「人文科学分野」「教育分野」「社会科学・地域課題分野」「環境・化学・数学分野」「生物学分野」の5分野の発表が行われた。各分野から各1組ずつに最優秀賞・優秀賞・優良賞が授与された。

「人文科学分野」

12組が発表。煤竹の継承、観葉植物と人との関わり、パブリックアートにおける表現の自由の境界線、自己肯定感の意義・向上、キャッチコピーを用いて環境問題への認知度を高める、災害に備えること、高校生の恋愛、アーキタイプの特徴、ウンディーネとヨーロッパ世界といったテーマが並んだほか、栃木県のサメ食文化、小野市において外国人と良い関係を築く、倉吉弁に古語は残っているのかといった地元を題材にしたものもあった。

「教育分野」

13組が発表。教師の雑談による教育効果、教師不足といった教師に関するものから、平和教育を題材にしたもの、言葉と意欲の向上の関連性、バウチャー制度の導入、ハンセン病をテーマにしたもの、外国の子供や技能実習生と教育に関する研究、ICT教育、吃音者への合理的配慮の検討、校則の在り方や授業中の居眠りといったトピックが並んだ。

「社会科学・地域課題分野」

13組が発表。空き家、無医地区、賃金格差、持続可能な農業など様々な社会課題に関するテーマや、ウクライナ避難民支援の改善策といったタイムリーな問題、伝統工芸品産業振興と地域活性化、石見神楽の娯楽性、オーバーツーリズム、住宅地化と田園都市線延伸の関係性、塩トマト導入、子宮頸がんワクチンをめぐる新聞報道、人に寄り添ったロボットのシステム構築、外部からの視点が地域住民のシビックプライドに与える影響といった発表が行われた。

「環境・化学・数学分野」

13組が発表。日焼け止め作り、ホルムアルデヒドの吸収量が多い観葉植物、待ち行列理論を用いた予約システム導入の評価、枯れ葉の再利用、ゴミ箱検

索サイト開発、不特定話者識別システム開発、ワインの搾り滓で歯磨き粉を作る、アサリを介したマイクロプラスチック摂取を防ぐための砂抜き時間の解明、カイロやマスクのリサイクル方法の可能性の検証、酒粕の機能特性を生かした化粧水開発、食品トレーを断熱材に活用、CO₂総排出量における電気自動車の優位性、エコロジカルサニテーショントイレにおける殺菌のメカニズムといったトピックが並び、基礎研究型から提案型まで様々な発表が行われた。

「生物学分野」

13組が発表。マルハナバチの死骸排除行動に関してコロニーの発達段階や死骸の雌雄に応じた死骸の認知過程の変化、龍門山におけるギフチョウの遺伝的由来、酵母菌による発酵速度の違い、色覚異常を持つ方の色識別補助と世間の色覚異常への理解度向上、詐病を巡る日本の精神科医療の課題に対する見直し方法、油を塗布する際の毛髪の引張強度の変化、消化酵素の加熱による活性の変化、アマゴの生育環境に御勅使川が適しているのか、鹿児島県における淡水性エビ類の最近の分布と抱卵状況、日本の小児製剤開発に貢献するために、ヤンバルトサカヤステの発生要因と駆除方法、ブラックバスを養殖魚の餌にといった様々な生物や現象に関する課題研究が並んだ。

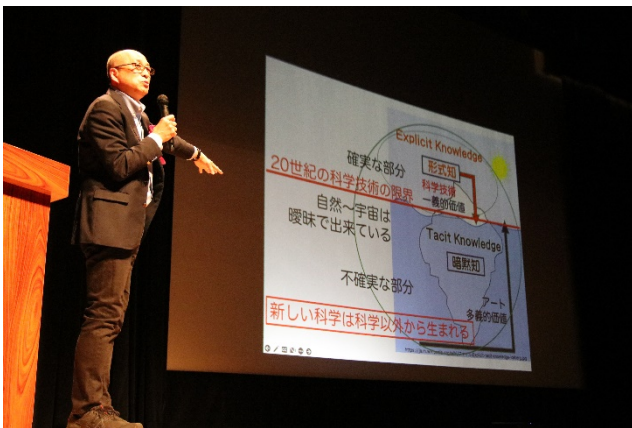


基調講演

基調講演では、東京工業大学物質理工学院教授の原正彦氏より『Science is not everything』という演題で、「情報爆発と20世紀の科学の限界」を題材にし、高校生にとって気づきや実りの多い講演が行われた。

現在の科学技術の限界の例を挙げ、そうした限界はなぜ来るのかを問い、「間違えてはいけないという科学の限界」を解決するためには「当たり前を問い直し新しい問いを生むこと」「新しいアイデアから新しい科学技術を生むこと」が大切であると語った。

基調講演を聴講した参加者からは「研究をする上での大事なことやリサーチクエスションの探り方などの大事なヒントがたくさん見つかった」「文系の自分には関係ないと思っていたが、人文的な観点も含まれていて面白かった」「『ベストではないが平均より良い』という選択をとるということが興味深かった」「学校にいただけでは得られない知見を得ることができ、とても面白く楽しかった」といった声が寄せられ、新たな視点や気づきを得るきっかけとなった。



パネルディスカッション

オックスフォード大学日本事務所代表 アリソン・ビール氏、株式会社オープン・シティー研究所 所長 日下部元雄氏、東京大学大学院工学系研究科教授 小林英津子氏、東京大学工学部物理工学科教授 齊藤英治氏、富士通株式会社 Uvance 本部 Healthy Living 所属 工藤春華氏、広尾学園中学

校・高等学校医進・サイエンスコース統括長同学園評議員木村健太氏の6名をパネリストに迎え、『社会の変化と求められる力』と題してパネルディスカッションが行われた。

多彩な経歴や経験をお持ちの先生方から意見が飛び交い、高校生にとって学びの大きい機会となった。自分で考えることの大切さ、経験の重要性、難しいことにもチャレンジすることの必要性など、様々な側面からパネリストの考えが語られたほか、多くのパネリストから「内発的動機付け」が大切だということのお話が飛び交った。そのお話の中では海外の大学での内発的動機付けに基づいた学びの紹介なども行われ、参加者にとって幅広い視点を獲得できる大きなきっかけの場となった。聴講した高校生からの質問も活発に行われ、ディスカッションを聴いて自分自身で考えたことをパネリストに伝えながら質問する生徒もいるなど、主体的な学びをしようとする姿勢が見られ、とても濃い時間となった。

パネルディスカッションを聴講した参加者からは、「探究をする意義を改めて認識できた」「良い失敗や内発的動機付けをこれから意識して行動していこうと思った」「今まで考えていなかったようなことも学べた」といった感想が多く寄せられた。中にはメモをとりながらパネルディスカッションを聞く生徒もいたほか、もっと時間がほしいという声もあり生徒にとって有意義な時間となった。



進路座談会

2 日目には進路座談会が行われた。今年度の進路座談会は前半・後半の2部構成とし『20代、その先のリアル』というタイトルで行われた。前半は高校生の少し先の世代を中心にメンバーが構成され、東京大学理学部数学科 佐藤ふたば氏、大阪大学大学院経済学研究科 野元聡真氏、株式会社 NTT ドコモ 中村彩夏氏、筑波大学理工学群社会工学類 亀井俊佑氏、東京大学大学院医学系研究科修士課程 谷口智海氏の5人が、後半はさらにその先の世代として、航空自衛隊医官 田所慎氏、津田塾大学 フォーア一バツハ海帆氏、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 吉本英樹氏、東京大学大学院工学系研究科教授 小林英津子氏の4名が登壇し高校生に向けてそれぞれの経験から気づいたこと、思うこと、考えたことなどが語られた。

それぞれの登壇者が、高校から大学そしてその先と経験する中で感じたことや実体験について述べ、ここでもパネルディスカッション同様、内発的動機付けが大切だということを多くの登壇者が語った。それぞれの経験を踏まえてどのような進路選択をするべきなのかなど、これから進路を決めていく高校生にとってリアルな声を聞ける貴重な機会となった。また、登壇者がこれまで歩んできた道の中で課題研究がどのようなものであったのかについても語られたほか、「大学に進んだ後も一度立ち止まり自分のやりたいことを模索し新たな進路へと進んでいく」といった生の声も語られ、参加した生徒にとって今後の進路選択を考える上でとても有意義な時間となった。

高校生からの質問に登壇者が答えるセッションもあり、自分自身の進路選択の中で気になっていることなどを積極的に質問する生徒も多く、主体的な進路選択につなげようとする姿勢が多く見られた。

進路座談会を聴講した参加者からは、「進路について悩んだ時の指針となるような話をたくさん聞けてすごく有意義だった」「登壇しておられる方がそれぞれ本当は紆余曲折していてどのような決め方をすれば良いのかなど進路について深く考えられた」

「興味のあることを続けることも重要であるが、必要性を考え、何かを辞める勇気も必要であることが分かった」「実際の大学生の話聞いたのは初めて

で貴重な時間だった」といった声が数多くあった。



交流会

今年の交流会は1日目の夜と2日目の午後に開催され、生徒や教員、審査員、各種登壇者らが参加した。1日目は審査員と生徒などとの間で意見交換が行われたほか、学校間を超えた生徒同士の交流もあり、普段それぞれの学校の中では出会うことのない様々な考えをもった人に出会って意見交換ができ、生徒たちにとって刺激の多い時間となった。2日目は各種登壇者や教員も加わり、より一層熱気にあふれた時間となった。中には、「昼食のあとは人が多くて質問しにくくなるので」と言って昼食よりも先に登壇者に質問にくる生徒もいるなど、主体的に参加する生徒が多かった。この日は進路座談会のあとだったこともあり、進路について質問をする生徒も多く、課題研究の内容にとどまらず、進路選択やその先といったことについてもリアルな意見交換が行われた。

そのほかにも、これから課題研究を行う生徒も参加しており、リサーチクエスチョンを立てる際に気をつけるべきことなどを質問する生徒もおり、今後の課題研究に役立つ情報を吸収しようとする姿も見受けられ、立ち位置は異なれど多くの人にとって実りの濃い時間となった。

参加者からは「各地の高校生と話すことができ楽しかったし、異なる分野の研究をした人とも話すことができ、新たな視点や研究方法を知れた」「審査員の方から探究の講評を頂き良い経験となった」「自分と同世代の全国の子がどのような考えを持っている、どんな研究をしているのかを知ってよい刺激になった」「様々な方と話し、新しい価値観や考え方について知ることができ有意義な時間を過ごせた」といった声が挙がった。

全国から高校生や審査員が集まり交流を深めたことで今後の課題研究や進路選択に大きな刺激を得た生徒も多かったであろう。普段、学校の中での学びでは得られない気づきを多く吸収できる場となった。



表彰式

大会 2 日目に表彰式が行われ、スライド・ポスターの両部門から、各分野について、以下の発表に賞が授与された。

| | 分 野 | 最優秀賞 | 優秀賞 | 優良賞 |
|--------|----------------|--------------------------------|--------------------------------|--|
| スライド発表 | 人文科学・教育 | 上村 遼 (佼成学園高等学校) | 浅田 真唯 他 (鳥取県立倉吉東高等学校) | 高 仙芽 他 (大阪教育大学附属高等学校 平野校舎) |
| | 社会科学・環境・ 防災 | 富井 優花 (新潟県立津南中等教育学校) | 保科 瑛 (東京学芸大学附属国際中等 教育学校) | 奥田 太陽 (佼成学園高等学校) |
| | 数学・物理学 | 関 唯斗 (芝浦工業大学柏中学高等学 校) | 佐々木 俊輔 (東京都立大泉高等学校) | 大小田 拓生 他 (鹿児島県立国分高等学校) |
| | 植物学 | 西田 優美奈 (横浜市立南高等学校) | 衛 千尋 (市川学園市川高等学校) | 宮城 ガブリエルアン 他 (ザイオン・クリスチャン・ アカデミー・インターナシ ョナル) |
| | 生物学 | 藤山 慶人 (佼成学園高等学校) | 青山 庵 (安田学園高等学校) | 瀬戸山 凌汰 他 (鹿児島県立錦江湾高等学 校) |
| ポスター発表 | 人文科学 | 上村 藍夏 他 (新潟県立津南中等教育学校) | 齋藤 麗 (宮城県仙台二華高等学校) | 上川 幸太郎 他 (学校法人神村学園高等部) |
| | 教育 | 中澤 仁成 (新潟県立津南中等教育学校) | 若林 仁瑛 他 (栃木県立佐野高等学校) | 神藤 彩耶 他 (大阪府立岸和田高等学校) |
| | 社会科学・地域課 題 | 村上 萌栞 (宮城県仙台二華高等学校) | 藤井 香菜子 他 (鹿児島県立国分高等学校) | 丸山 佳凜 他 (成蹊高等学校) |
| | 環境・化学・数学 | 彌永 岳人 他 (広島県立広島国泰寺高等学 校) | 渡邊 愛子 (山梨県立甲府西高等学校) | 本村 日菜子 (長崎日本大学高等学校) |
| | 生物学 | 今枝 空 他 (安田学園高等学校) | 津崎 貴博 他 (鹿児島県立国分高等学校) | 山本 初夏 (東京都立大泉高等学校) |

2 日目の午後にはスライド発表で最優秀賞を受賞した 5 組が登壇し、それぞれの課題研究をシンポジウム参加者全員に向けてプレゼン発表を行った。分野によって研究テーマは異なれども、どのチームも堂々とした発表・質疑応答を行い、レベルの高い研究成果を披露した。

その後グランプリが決定され、第 8 回高校生国際シンポジウムでグランプリ・文部科学大臣賞を受賞したのは「生物学分野」で「カルシウムがザリガニに与える影響」について課題研究を行った佼成学園高等学校の藤山慶人さん。

藤山さんの発表はザリガニの脱皮や成長に必要な胃石の主成分であるカルシウムをザリガニが積極的

に外界から取り込み、胃石を大きくしているのかを探究したもの。実験からカルシウムを多く含んでいない落ち葉を与えたザリガニの胃石は直径・密度の両方が最も小さかったことや、ハサミがないことで脱皮を促進する必要があるため、カルシウムイオンを多く含む水溶液に滞在しがちになると考えられることなどを発表した。「仮説までの論理が非常に明確で仮説に対する対照実験もできていた点」「質疑応答においても専門的な知見からしっかりと述べられていた点」「研究対象に対して強い情熱・愛情をもって課題研究を行っていた点」などが評価され、グランプリを受賞した。

研究に対して情熱にあふれたものほど、より充実した発表となっていた。生徒の興味・関心を大切に、生徒自身がわくわく感を持ち情熱にあふれた実りある課題研究を行えるようなサポートがより大切になってくるだろう。



講評

スライド部門の講評に関しては、人文科学・教育分野を（株）オープン・シティ研究所共同代表 日下部笑美子氏，社会科学・環境・防災分野を（株）オープン・シティ研究所所長 日下部元雄氏，数学・物理学分野を沖縄科学技術大学院大学学術連携推進シニアマネジャー 森田洋平氏，植物学分野を鹿児島大学学術研究院理工学域理学系教授 内海俊樹氏，生物学分野を国立精神・神経医療研究センター神経研究所（疾病研究第五部）室長 柳下聡介氏が務めたほか，ポスター部門はすべての分野を代表して関西大学化学生命工学部教授 上田正人氏が講評を行った。講評を行った各審査員からは，それぞれの発表分野においてどのような研究が行われたのか，良かった点・改善点等は何なのか，最優秀賞等を受賞したチームの受賞理由等が述べられた。



講評において審査員から示された改善点としては、

- ・言葉の定義や意味など基礎的な理解が不十分なまま進めているため、曖昧な結果となってしまっている。基礎となる部分の理解をしっかりと行う。
- ・リサーチクエスチョンが明確になっていないものは、結局どの部分が発表の中で重要なのか、何を明らかにしたいのかが不明瞭になっていた。
- ・リサーチクエスチョンが不明瞭なまま活動、調査・実験を行っているものは、そもそもの狙いや目的について立ち返る必要がある。
- ・学校で習う数学や化学式を有効に使うことで、結果に対する理解や解釈がもっとクリアになる。

など、基本を重視する大切さが主に述べられた。

一方で、

- ・身近なところから、問いを深めてリサーチクエストまで導いていることに感銘を受けた。
 - ・大学生も顔負けの専門的な内容もあった。
 - ・得られた結果からさらに問いを重ね、次の研究がすでに始まっているものも見られた。
 - ・研究対象に愛を感じるほど高いモチベーションに心を打たれた。
- など、主に高校生の姿勢や探究心に対する高い評価を聞くことができた。

講評を聞いた参加者からは「他の分野の審査員の考えなどをうかがうことができよかった」「今後の実験を展開していくときの注意点などを聞くことができ、たくさん参考にできることがあって聞くだけでなく活用していきたいと思った」「どういった点が研究において重要なかが解説されていたのでとても参考になった」「高校生扱いをしないコメントが嬉しかった」等の声をいただき、これまでの課題研究のフィードバックとこれからの課題研究の一助という意味でも気づきの多い時間となったようであった。



また、本シンポジウムの特徴として高校生と審査員の関係は上下の関係ではなく、審査員は高校生と同じく「研究・探究に取り組む豊富な経験と高度な専門性を持った者」という立場になっている。そのため、審査員からも「自分の研究を見直す機会になった」や「明日からまた頑張ろうという熱意を貰った」という声を聞くことができた。長時間に渡る審査であったが、審査員の皆さんの充実感に満ちた顔が大変印象的であった。

参加者等からの声

今大会の参加者等からいただいた声の一部を紹介しよう。

- ・パネルディスカッション・座談会ともに、自分の将来の在り方を考え直す良い機会になった。自分の進みたい進路に対して自信を持つことが大事だと改めて思った。
- ・課題研究活動への意欲が高まった。
- ・様々な分野の本物の方々と対話する機会があり、素晴らしい経験ができた。
- ・周りの人の研究は圧倒されるものばかりで、分野に関係なく手法や展開の仕方など学ぶ面も多かったし、純粋に面白かった。
- ・交流会では生徒同士でも「こういう視点は？手法は？」などお互いの研究について一緒に話しながら考えられたのが幸せな時間だった。
- ・単なる発表会ではなく、学び・出会い・刺激がある大会であった。高校生の力にたいへん驚いたほか、参加生徒の一生に大きな影響を与える大会であると思った。
- ・生徒、審査員のレベルが高く、議論も活発でとても充実した2日間であった。
- ・次回も参加したいと思うような貴重な体験ができ、現場に持ち帰り、よりよい探究になるように指導していきたい。



第八回高校生国際シンポジウム報告・アンケート結果

基本情報

- 1 主催 一般社団法人 Glocal Academy
- 2 協賛 学校法人福岡雙葉学園理事長, 学校法人麻生塾塾長 麻生泰 (特別協賛)
株式会社 新興出版社啓林館, 株式会社新日本科学、
マスタアンドパートナーズ株式会社、株式会社 JTB
- 3 後援 文部科学省, 経済産業省, オックスフォード大学日本事務所,
在福岡米国領事館
- 4 テーマ 「人類の英知の上に立ち, 未来を創る」
- 5 目的 日頃の探究・研究活動の成果をスライド発表やポスター発表としてまとめ, 生徒が自らの研究成果を発表するとともに, 参加者間の交流を深めながら今後の進路選択や社会への理解を深めていく。
- 6 期日・会場 令和5年2月21日(火) および2月22日(水)
宝山ホール (鹿児島県文化センター) 〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町5-3
- 7 日程

| 【1日目】 2月21日(火) | | 【2日目】 2月22日(水) | |
|----------------|---------------|--------------------|-------------|
| 受付 | 9:00~9:30 | 受付 | 9:00~9:30 |
| 開会行事 | 9:30~10:00 | 表彰式・講評(※3) | 9:30~11:00 |
| 基調講演 | 10:00~10:30 | 進路座談会(※4) | 11:00~12:30 |
| パネルディスカッション | 10:40~11:50 | 昼食 登壇者・審査員との交流会 | 12:30~14:15 |
| 昼食 | 11:50~13:00 | 優秀発表・グランプリ発表(※5) | 14:15~16:00 |
| 課題研究発表・審査会※1 | 13:00~17:15 | 閉会行事 | 16:00~16:30 |
| 第1部 | (13:00~14:15) | | |
| 第2部 | (14:30~15:45) | | |
| 第3部 | (16:00~17:15) | | |
| 夕食(希望者のみ) | 17:25~18:15 | | |
| 生徒交流会・研修会(※2) | 18:15~ | | |

※1 詳細は別紙1を御参照ください。

※2 1日目に課題研究に関する教員研修会・情報交換会を実施します。内容は課題研究の指導のあり方および事例発表等です。詳細はWebを御覧ください。

※3 ポスター発表, スライド発表における各部門の最優秀賞にはシンガポールで行われる Global Link Singapore への推薦参加資格が与えられます。また, スライド発表部門の各分野の最優秀賞発表は表彰後に発表をして頂きます。講評は各分野の審査責任者が行います。

※4 若手のパネリストを迎え, 進路決定に関するパネルディスカッションを実施いたします。昨年度大変好評だったため, 今年度は時間を長く取り, 二部制といたします。

※5 スライド発表の最優秀発表グループおよび個人の中から, 各分野の審査員および審査統括責任者による協議を行い, グランプリを決定し文部科学大臣賞の授与を行います。



Global Link
Singapore

アジア地域を中心とする世界各国の中高生が, 科学や国際課題に関する考えや研究成果を, 英語を使って国際舞台で発表します。

公式 HP: <https://www.jtbbwt.com/gsl/index.html>

8 基調講演

東京工業大学物質理工学院教授 原正彦

タイトル：『Science is not everything』

原正彦（自己組織化、ナノテクノロジー）1988年東京工業大学（東工大）工学博士。1985年理化学研究所研究員、1986年からフロンティア研究システム設立に携わり、1991-99年エキゾチック・ナノ材料研究副チームリーダー、1999-2007年局所時空間機能研究チームリーダー、2007-13年創発（揺律）機能研究チームリーダー、2009-13年理研-HYU研究センター長（韓国ソウル）、2011-21年文部科学省CAMPUS Asiaプロジェクトリーダーなどを歴任。現在、東工大物質理工学院教授、地球生命研究所（ELSI）連携教授、理化学研究所客員研究員、ロンドン芸術大学 Scientist in Residenceなどを務める。

9 パネルディスカッション

テーマ：『社会の変化と求められる力』

パネリスト：

アリソン・ビール氏（Alison Beale）オックスフォード大学日本事務所代表
日下部元雄氏 元世界銀行副総裁、（株）オープン・シティー研究所所長。
小林英津子氏 東京大学大学院工学系研究科教授、博士（工学）。
齊藤英治氏 東京大学工学部物理工学科教授
工藤春華氏 富士通株式会社 Uvance 本部 Healthy Living 所属。
木村健太氏 広尾学園中学校・高等学校医進・サイエンスコース統括長、同学園評議員。

10 進路座談会

テーマ：『20代、その先のリアル』

登壇者：

佐藤ふたば 東京大学理学部数学科
野元聡真 大阪大学大学院経済学研究科
中村彩夏 株式会社 NTT ドコモ
亀井俊佑 筑波大学理工学郡社会工学類
谷口智海 東京大学大学院医学系研究科修士課程
田所慎氏 航空自衛隊医官
フォーアーバツハ海帆氏 津田塾大学
吉本英樹氏 東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
小林英津子氏 東京大学大学院工学系研究科教授

11 広告掲載団体

株式会社 新興出版社啓林館、株式会社 JTB、株式会社新日本科学、沖縄科学技術大学院大学、立命館アジア太平洋大学、関西大学、ABC TV、鹿児島国際大学、三井住友海上、南国交通株式会社、株式会社センコウ、株式会社寿福産業 計12団体

第八回高校生国際シンポジウム審査員一覧

各分野の審査長は太字の方となります。

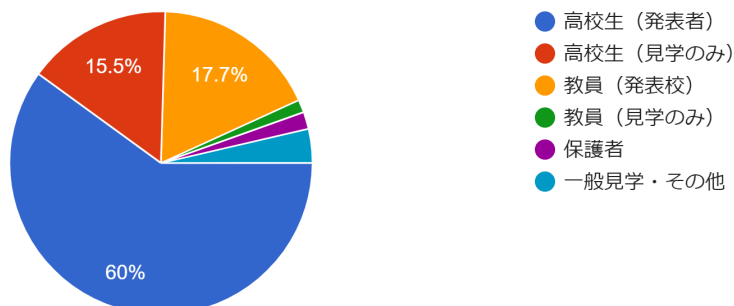
| スライド発表 | 氏名 | 肩書 | 略歴 |
|---------------|----------------|---|---|
| ①人文科学・教育分野 | 日下部 美美子 | (株)オープン・シティー研究所共同代表、Abalance株式会社社外取締役、ロンドン大学UCL校計画学博士 | オープン・シティー研究所共同代表、計画学博士。Abalance株式会社、社外取締役。ロンドン大学LSE地理学修士、人文地理学リサーチ修士。ロンドン大学UCL計画学修士。英国経済環境開発センター(UK CEED)客員上級研究員、世界銀行グループファミリーネットワーク(WBGN)入選委員会議長、国連UNPAN、WHO共催ラウンドテーブルパネリスト、国連HABITAT上級レベル作業部会パネリスト。現在、研究所共同代表として社会関係団体による負の連鎖への予防的対応推進によりSDG3の実現に向けた研究を行っている。 |
| | Alison Beale | オックスフォード大学日本事務所代表 | オックスフォード大学日本事務所代表。英国出身。オックスフォード大学卒業(フランス、ドイツ文学専攻)、シェフィールド大学日本研究修士号取得。JETプログラムで赴任した大分県で日本に魅了され、ブリティッシュ・カウンシルに就職。主に日本で国際文化交流分野でキャリアを積み、現職では日本の企業、財団、卒業生や個人の方々とオックスフォード大学との関係構築、強化に努める。日本の大学の国際委員会等での委員、在日英国工商会議所副会、日英協会専務理事、新国立劇場理事も務めている。 |
| | 若田 直也 | 福岡大学人文学部専任講師 | 福岡大学人文学部専任講師。京都大学で西洋古代哲学を学び、英国ケンブリッジ大学にて博士号を取得。オックスフォード大学ポスター研究員などをを経て現職。専門はプラトンとアリストテレスの認識論。 |
| ②社会科学・環境・防災分野 | 日下部 元雄 | (株)オープン・シティー研究所長、元世界銀行副総裁 | (株)オープン・シティー研究所代表取締役・所長、東京大学大学院経済学修士、Yale大学経済学修士、大蔵省入省、財政金融研究所総括主任研究官、財務省官庫、金融市場改革担当参事官等を歴任。その間、IMF理事室、欧州復興開発銀行、世界銀行副総裁を勤め、貧困国に対する開発戦略策定、アジア経済危機への対応などを行う。その後ロンドン・東京で研究所を立ち上げ社会的排除、貧困、格差問題、生涯学習の計量的調査分析を英米両国11都市を対象として行う。 |
| | 島津 公保 | 株式会社島津興業相談役 | (株)島津興業相談役。鹿児島県教育委員。慶應義塾大学大学院工学研究科 管理工学専攻 修士課程修了。三菱電機(株)で交通部門の営業を経験し、平成元年に島津興業に入社。平成11年～平成19年まで同社代表取締役。鹿児島県の観光振興に取り組み、特に「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録に当初から関わり実現に尽力。 |
| | 水谷 司 | 東京大学生産技術研究所准教授 | 東京大学生産技術研究所准教授。東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院工学系研究科社会基盤学専攻にて博士号(工学)取得。日本学術振興会特別研究員(PD)、東京大学大学院工学系研究科特任講師を経て2019年より現職。2020文部科学大臣表彰若手科学者賞、2021科学技術振興機構創発研究者。革新的計測・情報処理技術による次世代サイバーインフラの実現に向け研究を行っている。 |
| ③数学・物理学分野 | 森田 洋平 | 沖縄科学技術大学院大学学術連携推進シニアマネージャー | 沖縄科学技術大学院大学 学術連携推進シニアマネージャー。筑波大学大学院博士課程、高エネルギー加速器研究機構の広報室長などを経て、現職。国際会議の誘致、各種科学イベントの企画、科学ジャーナリストとのつながりなどを活かした様々な広報活動を担当。 |
| | 齋藤 英治 | 東京大学工学部物理工学科教授 | 1971年東京生まれ。東京大学工学部物理工学科教授。東京大学大学院工学系研究科にて博士号取得。慶應義塾大学理工学部物理学助手、専任講師を経て、2009年東北大学金属材料研究所教授。2014年より科学技術振興機構ERATO研究総括。2018年より現職。専門は物性物理学。日本学士院賞、日本学術振興会賞、仁科記念賞、日本IBM科学賞等20を超える国内外の賞を受賞。 |
| | 吉本 英樹 | 東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 | 東京大学工学部航空宇宙工学専攻修士課程修了。2010年より選任し、2016年Royal College of Art (英国工芸芸術学院) Innovation Design Engineering学科博士課程修了。2015年にロンドンでTangent Design and Invention Ltd創業。世界的に有名な高級ブランドを顧客に、様々なデザインプロジェクトを手がける。2020年より東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。 |
| | 内海 俊樹 | 鹿児島大学学術研究院理工学工学地理学系教授 | 鹿児島大学学術研究院理工学工学地理学系教授。長崎県佐世保市生まれ。鹿児島大学大学院学術研究科修士課程生物学専攻修了。出光興産株式会社中央研究所を経て、1986年鹿児島大学理学部生物学科助手。東京大学応用生物研究所(現 分子細胞生物学研究所)、フランス国立植物学研究所(現 細胞統合生物学研究所)で研究活動。2010年より現職。博士(農学)。専門は微生物遺伝学、植物-微生物相互作用。 |
| ④植物学分野 | 宇津木 光代 | Nature Portfolio | Nature Portfolio(シュプリンガー・ネイチャー・ジャパン)科学マガジン『ネイチャー・ダイジェスト』『マネージングエディター(編集長)を2013年10月から務める。東京書籍(株)編集局、理化学研究所(免疫・アレルギー科学総合研究センター)を経て、2010年より現職。農学修士。博士論文(医学)審査の3ヶ月前に同社への就職が決まり、再び出版の道へ。 |
| | 新戸 昌宣 | NPO法人SOMA代表理事 | 1980年東京生まれ。農学博士(農業昆虫学)。専門は昆虫生態学、環境微生物学、環境科学。米国コーネル大学にて博士号を取得。同大学で研究と教育に従事。2016年、高知県で中山間地域再生局に参画。2017年にNPO法人SOMAを設立。「ひとが有つ環境をとのえろ」をミッションに環境再生事業と学びの環境づくりに取り組み。環境再生手法と人の発達教育に環境が及ぼす影響を生態学的な視点から研究している。宮城県若狭の社再生事業プロジェクトリーダー。経済産業省産業構造審議会委員(イノベーション)小委員会委員(2021年～)。現在は福岡県福岡市で活動。 |
| | 柳下 聡介 | 国立精神・神経医療研究センター神経研究所(疾病研究第五) 室長 | 国立精神・神経医療研究センター神経研究所(疾病研究第五)室長。東京大学教養学部生命・認知科学科を卒業後、同大学院総合文化研究科にて、学術博士を取得。専門は神経病理学。小学生の時にNHKスペシャル『脳と心』を見て、記憶のメカニズムに興味を持つ。そのために、これまで貫いてアルツハイマー病の基礎研究に取り組んでいる。現在は、アルツハイマー病の発症に伴って神経細胞内に蓄積するタンパク質タウに着目し、その発症メカニズムの解明を目指している。 |
| ⑤生物学分野 | 小林 英洋子 | 東京大学大学院精密工学科教授 | 東京大学大学院精密工学科教授、博士(工学)。東京生まれ。東京大学工学部精密工学科卒、同精密工学専攻修了。東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻リサーチアシソシエイト、講師、同大学院工学系研究科精密工学専攻准教授、東京女子医科大学先端生命医学研究科准教授を経て現職。低侵襲手術を支援するための手術支援ロボット・デバイスの研究を基礎研究から実用化まで、幅広い医工連携の場とも連携している。 |
| | 田所 慎 | 航空自衛隊医官、中部大学大学院工学研究科 | 航空自衛隊医官。中部大学大学院工学研究科。防衛医科大学校医学科卒業、医師免許取得後、防衛医科大学校病院、自衛隊中央病院にて初期臨床研修、後期臨床研修、耳鼻喉科専門医取得。航空自衛隊第9警戒隊衛生小隊長(下郷島)、航空医学実験隊医学選任班長、同任訓練班班長、防衛省航空医務監督官首席衛生官等を歴任。在任中の経験から空間遊形成機構の解明が航空医学上の喫緊の課題と考え、現在は中部大学大学院工学研究科博士後期課程において研究活動に従事している。 |

| ポスター発表 | 氏名 | 肩書 | 略歴 |
|--------------|---------------------|-----------------------------------|--|
| ①人文科学分野 | 室国 文子 | 学校法人吉井学園理事長、社会福祉法人若ノ原福祉会総務課主任、施設長 | 学校法人吉井学園理事長、社会福祉法人若ノ原福祉会総務課主任、施設長。横浜市で生まれ。横浜雙葉学園高等学校卒業。慶應義塾大学文学部英米文学科卒業。1987年夫のUターンで鹿児島市に転居。室国メディカルハウスでは終末期医療と望まぬ妊娠のケアにあたる。2011年より現職。 |
| | 山根 友美 | 立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部助教 | 国際協力機構、大阪教育大学、広島大学を経て、2022年10月より現職。2023年4月にサステナビリティー観光学海外研修予定。大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSPP)博士後期課程単位修得退学。広島大学から論文博士にて博士(学術)。専門は、ミクロ計量経済、開発経済、サステナビリティサイエンス。最近の研究の関心はSDGsの認知や個人のサステナブルな行動。 |
| | 工藤 春華 | 富士通株式会社Uvance本部Healthy Living | 富士通株式会社Uvance本部Healthy Living所属。京都大学を卒業後、2008年に厚生労働省に入省。子育て支援や母子保健、外国人雇用対策などに担当。内閣官房に出向し、首相官邸で厚生労働省の調整にも携わった。2015年からは2年間、イギリスに留学し、オックスフォード大学で公共政策学の修士号を、ロンドン大学で政治学の修士号を取得。2023年からは富士通株式会社に転職。Uvance本部Healthy Livingでヘルスケア関連の新規事業企画に従事。 |
| ②教育分野 | フォーアー パパハ 海帆 | 津田塾大学 | 鹿児島県出身。津田塾大学文学部英文学科。在学中はアメリカ政治を専攻。ニューヨーク市立大学シティカレッジにて公衆衛生を専攻。歴史学修士号取得。在NY市テレビプロダクション、帰国後は国際非営利団体、外資系リクルート会社での勤務を経て、フリーランスに転向。翻訳業務、企業向け語学トレーニングを行う。現在、母校津田塾大学にて科目履修生として教職課程を履修中。 |
| | 植木 和司郎 | Education Link (産学官連携教育事業)代表 | 1984年同志社大学法学部卒、同年、株式会社日本交通公社、現 JTBC グループ入社。インバウンド部門(国際交流事業部)にて、訪日ツアー企画造成や企業インセンティブ、F1やJRAなど国際イベントを担当の後、教育事業に転じ、海外研修ディレクターとして中大生における海外研修の企画実施サポート。2014年、探究学習・課題研究など発表の場としてシンガポールにて「中大生の課題研究発表イベント Global Link」を創設。以後7年間事務局長として従事。国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「科学部活動振興プログラム」推進委員。東京学芸大学×JTBC「学校行事効果測定システム SEAS」共同研究主幹などの経験から、SSH、SGH、WWL など全国各地の中学校の研修プログラムや課題研究をサポート。各分野で新しい時代の人材育成、産学官の連携による研修プログラムの企画等に携わっている。 |
| | 木田 博 | 鹿児島県教育委員会事務局学校ICT推進センター所長 | 1989年鹿児島県小学校教諭として採用。1999年鹿児島大学教育学部教育学研究科修士課程修了。鹿児島県立学習情報センター指導主事、同主幹、鹿児島県総合教育センター(情報教育研修課長を経て、2021年)から現職。2019年から現職。「ICT活用教育アドバイザー」及び同企画調整委員を務める。文部科学省「学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議」委員(2022年)、文部科学省「学習eポータルに関する専門家会議」委員(2022年)、デジタル庁デジタル推進委員(2022年～)、「鹿児島県教育の情報化推進会議」委員(2021年～)、「鹿児島県学力の向上検証改善委員会」委員(2022年)、「マイクロソフト認定教育イノベーター(MIEE) (2017年)」等を務める。 |
| ③社会科学・地域課題分野 | 東 まゆみ | オックスフォード大学日本事務所代表補佐 | オックスフォード大学日本事務所代表補佐。慶應義塾大学文学部を卒業後、銀行に勤務。その後マサチューセッツ大学マースチュークス校で美術史の修士号取得。米国在住時は美術鑑賞ツアーや病院でのボランティアを経験。帰国後、外資系企業勤務を経て、2002年より現職。日本とオックスフォード大学とのパートナーシップ開拓、関係構築・促進に努める。 |
| | 大塚 宏哉 | 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部教授 | 立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授、経済学博士。オーストラリアのシドニー大学にて修士号～博士号まで取得。研究分野は経済成長・技術発展など。大阪大学大学院経済学研究科。鹿児島出身。大阪大学法学部国際公共政策学(一般入試)在学中、平成30年度「自治体の住宅補助政策は子育て世帯の生活入を促進するか大阪府の市町村別パネルデータを用いた分析」博論賞受賞論文佳作(共著)、2020年度 青雲キャリアチャレンジ賞(2021年3月)を受賞。労働経済学・応用計量経済学専攻、高校授業料無償化が学生の進学行動に与える影響について研究中。 |
| | 野元 聡真 | 大阪大学大学院経済学研究科 | 関西大学化学生命工学部教授、博士(工学)。関西大学工学部卒、大阪大学大学院博士前期・後期課程修了。学位を取得すると同時に同大学院助手に就任。関西大学に専任講師として異動し、准教授を経て教授に昇進。2010年から1年間、ケンブリッジ大学に客員研究員として在籍。専門は再生医療。最近、腎臓病とサングコにおける骨格形成の類似性に着目し、再生医療を利用したサングコの高効率増殖に挑戦している。株式会社イノバでは取締役CTOとして、環境医療技術とその応用方法を開発している。 |
| ④環境・化学・数学分野 | 上田 正人 | 関西大学化学生命工学部教授 | 九州大学応用化学部門助教、材料科学博士。札幌市に生まれる。慶應義塾大学理工学部卒業後、米カリフォルニア工科大学にて材料科学博士号を取得。米ウエスタン大学でのpredoctoral visiting scholar、独ユーストラスリービヒ大学でのHumboldt research fellowを経て、2020年から現職。無機材料中の「動き」に着目したエネルギー材料の研究を得意とし、高温差から電気を生ずる熱電材料や、安全で高性能な次世代蓄電池デバイスである全固体電池の実現に向けた研究を展開する。趣味はサッカー。 |
| | 大野 真之 | 九州大学応用化学部門助教 | 東京大学理学部数学科、千葉県立船橋高等学校理科科に在学中に「ブレスレットモデルを用いたカゲ列の振振」というテーマで数学の課題研究を行い、平成31年度JSTスーパーサイエンスハイス쿨(SSH)生徒研究発表大会審査委員長賞、第18回朝日新聞社高校生科学技術チャレンジ審査員奨励賞などを受賞。東京大学理科一類に一般入試で入学後も自主研究を続け、専門課程では東京大学理学部数学科で作用素論・数論物理学を専攻中。 |
| | 佐藤 ふたば | 東京大学理学部数学科 | 広尾学園中学校・高等学校 医進・サイエンスコース統括長、同評議員。広尾学園では医進・サイエンスコースを設立し、生徒の主体性を軸とした研究的な学びを推進してきた。学外では現在、情報経営イノベーション専門職大学客員教授、特定非営利活動法人遠征カウンスリング・ジャパン理事、一般社団法人STEM JAPAN理事、内閣府総合科学委員、イノベーション会議委員、経済産業省産業構造審議会委員、同委員未来人材会議委員、同「未来の教室」委員、科学技術振興機構ジュニアドクター育成推進委員、東京都(科学の甲子園)TOKYOサイエンスフェスティバル審査員等を担い、多方面から教育改革にかかわる。 |
| ⑤生物学分野 | 木村 健太 | 広尾学園中学校・高等学校 医進・サイエンスコース統括長、同評議員 | 国立大学法人鹿児島大学農学部准教授、農学博士。北海道・札幌市で生まれる。帯広畜産大学畜産学部卒、東北大学農学部農学研究科にて農学博士号を取得。その後、理化学研究所、筑波大学、農業生物資源研究所で研究員を勤め、2011年に鹿児島大学に助教として着任。植物の環境ストレス応答機構を専門としているが、最近では、植物間のコミュニケーション能力に関心があり、その農業への応用を目指している。 |
| | 吉田 理一郎 | 鹿児島大学農学部准教授 | 埼玉医科大学医学部(薬理学教室)講師。東京大学教養学部生命・認知科学科を卒業後、同大学院医学系研究科にて、医学博士を取得。専門は、神経科学。大学入学時は国際公務員を目指していたが、ラマチャンドラン著『脳のなかの幽霊』と出会い、ヒトの脳の仕組みに関心を持つ。現在は、自閉スペクトラム症候群の発症メカニズムや、それに与える性差の影響の解明を目指している。教育面では薬理学の講義・実習を担当し、学内外での医師や看護師の育成にもあたっている。 |
| | 柳下 美穂 | 埼玉医科大学医学部(薬理学教室) 講師 | 埼玉医科大学医学部(薬理学教室)講師。東京大学教養学部生命・認知科学科を卒業後、同大学院医学系研究科にて、医学博士を取得。専門は、神経科学。大学入学時は国際公務員を目指していたが、ラマチャンドラン著『脳のなかの幽霊』と出会い、ヒトの脳の仕組みに関心を持つ。現在は、自閉スペクトラム症候群の発症メカニズムや、それに与える性差の影響の解明を目指している。教育面では薬理学の講義・実習を担当し、学内外での医師や看護師の育成にもあたっている。 |

アンケート結果

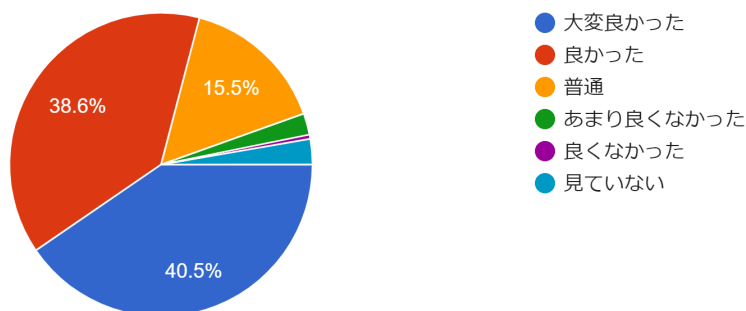
1. あなたのご所属についてお答えください。

220 件の回答



2. 基調講演について

220 件の回答



<基調講演についてのコメント（任意）>

サッカーぬスルーパスのたとえに納得しました。

ステージ上での話し方についてイメージがついた。

曖昧な科学の視点を持つことが出来たのは、理科の教員として、とても勉強になりました。

この機会にやらなくても良いと感じた

とても貴重なお話をお伺いでき、有意義な時間を過ごせました。

科学の今と未来について

とても有意義な時間を過ごせました！

動きやパワーポイントなどプレゼンテーションの模範を実際に見ることができた

人間を含む生物の可能性を感じた

科学はまだまだ可能性が沢山あるんだなと思いました

科学の限界や暗黙地、形式地などについて知ることができた

ありがとうございました。もう少し詳しく聞きたかったです。

最短ネットワーク問題について、石鹼膜の表面張力を利用して実験した経験があり、アメーバを利用した研究についても興味をもって聞くことができました。コンピューターを使うだけでなく、自然現象を見つめることで答えが見えてくる部分もあるとあらためて分かり、たいへん面白かったです。

先に発表をした方が良いかもしれないです。

研究をする上での大事なことやリサーチクエスションの探り方などの大事なヒントがたくさん見つかった。

このようなあるものを専門としている方の話を伺える機会は多くないため、非常に興味深かったです。

21世紀の科学について初めて知る機会を得た。

いろんなことを知ることができ良かった

「曖昧さを許す」「当たり前を問い直す」学校に戻り、生徒にも伝えて行きたいと感じました。ありがとうございました。

化学の教員です。『ベストではないが平均より良い』という選択をとる、というのがとても興味深かったです。他にも学校にいただけでは得られない知見を得ることができ、とても面白く楽しかったです。

アメーバを使った

実際にアメーバの実験を見せていただいたので面白くて、興味を持って講演を聞くことが出来た。

AIにいつか人間は抜かされるという危機感を感じていたので、現在コンピュータに出来ないこともあるということを知ってその出来ない予測不能なアート思考をどう私達が形成していくか興味がわきました。

サッカーのスループスの例えがわかりやすかったです。

情報爆発に対して粘菌のファジーな行動を利用することから、これから必要な曖昧なサイエンスを語っていただけて感動しました。最適解だけが正解ではない、生物の生き方にもつながると思いました。

たいへん興味深く、共感できる内容でした。

ためになるお話でした

内発的動機付けというキーワードが提起されたため

科学のお話で一見文系の私には関係ないかと思ったけれど、暗黙値や「揺るぎ」や「曖昧さ」を許すという観点で人文的な考えが入ってきて面白かったしためになった。

普通に生活していたら絶対に会うことのない方から講演を聞いたのでよかったです。

教育でも揺らぎと曖昧さが重要になってきていると考えさせられました。

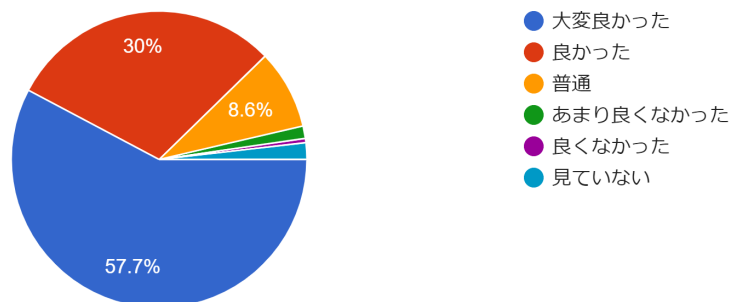
科学技術の限界の話は、これからの科学の理解には必要な事で、大変興味深い話しでした。探究教育がなぜ必要か、学者視点から説得性のある講演を聞いて勉強になりました。欲を言えば、用意されていたスライドの最後まで（特に、なぜ「海外か？」の話）聞きたかったです。

「21世紀の科学」のなかで不安定さ、ゆらぎといったこれまでネガティブとされてきた要素が、逆に取り込まれとらえ直されようとしているという話が興味深かった。これまでの定義をとらえなおす作業が最新の研究でも行われている具体例を聞いたのがたいへん参考になりました。

私の理想とする研究でとても興味深かったです。

3. パネルディスカッションについて

220件の回答



<パネルディスカッションについてのコメント（任意）>

司会が素晴らしかったです。

考えが深まりました。

高校生や教員の疑問に即した質疑応答であった。

探究をする意義を改めて認識できた。

とても自分の将来のためになることが沢山聞くことができた。

考えることについて語る部分など、なかなか面白かった

今の社会の変化や今後求められる力というのは非常に役に立つと思いました。大変ありがとうございます。

質問時間が短かったです（正直あとの交流会で話聞けたので全然問題ないと思いますが。）でも最高でした。

発表者も含めたこのようなディスカッションをやる機会はなかなかないので貴重な経験になりました。また、今まで考えたことのなかったようなことも学べてよかったです。

教員の役割について考え直すことができました。生徒にたくさんの機会を与え、新たな視点を持たせたいと思います。

各専門分野の方々のディスカッションが聞いていて楽しかったです。

素晴らしいものでした

色々な方のお話を聞いて良かったです。

興味深い話を聞いた

生徒に解答や発言を求める場面など、参加の要素があればより良いと感じました。

たくさんの人の社会についての意見を聞くことができたり、日本と外国の教育についてしれたり、学校の意味について考える機会になった。

内発的動機づけについて日本とイギリスとの違いで、日本はイギリスに比べると生徒同士、また生徒と先生の1体1の話し合いが少ないという話があり、日本人の性格の傾向的にも難しいかもしれないが見習うべきだと思った。

何のために学ぶのかを改めて考えられた

色々な先生の方びーのお話が聞いて面白かったです

私たちが社会に出ていく上で以前とは異なる能力が求められるようになり、自分のやりたいことを追い求めることも大事であるが、社会で役立ち生きていけるような学問も学ばなければならぬため、大学選びなどたくさん考える必要があると思った。

次代を作る人への愛あるメッセージに溢れていて、なおかつ深い話が大変よかったです。

何をすることも刺激が必要であることがわかった。

かなり有意義なお話を伺うことができました。皆さんの視点を知ることができて、これからの指導に活かせるようなことがたくさんありました。凄く刺激的な時間だったと思います。

ファシリテーターが話しすぎです。自身が話したいのかもしれませんが、我慢しましょう。

これから自分のやりたいことをやっていく上で、もっとチャレンジしていこうと思えた。

様々なジャンルの専門家の話を聞くことができ、面白かった。もう少しディベート的なものでも面白そう。

人生においてとても参考になる部分があり、たくさんメモを取らせていただきました。良い失敗や内発的動機づけをこれから意識して行動していこうと思った。

たくさんの分野の専門家が僕たちのために熱い議論があって学べてよかったです

教員として、生徒のためにできることは何かを改めて考えさせられるディスカッションでした。

失敗を恐れず、どんどん経験をさせ、未来を作っていける学校を目指して行きたいと思います。

よく、自分の限界を越えろ、殻を打ち破れ等の表現はしますが、『リミットを外す』という表現がポテンシャルは絶対あるという「期待」から来る言葉でとても響きました。

違う視点からの意見も多くて、ためになることばかりだったのでもっと詳しく聞いてみたいと思った。

開始段階で失敗を肯定的に定義することで、参加者の背中を押してくださる内容でした。

様々なお話を聞いて良かったです

探究活動考える上で大変参考になったため。進行のテンポも良く、心地良く吸収することができた。

木村先生の「この研究を面白くしたのは俺だから、この分野に来るな！」というエピソードが面白かったし、自分の中で大きな気づきがあった。ここで生まれた疑問を木村先生に直接伝えて、いっぱい対話ができ、とてもためになった。

パネリストの方々が、どのように考えながら生活しているのかを知れて興味深かった。

教員として学校の役割を常に考えているので、とてもワクワクしました。

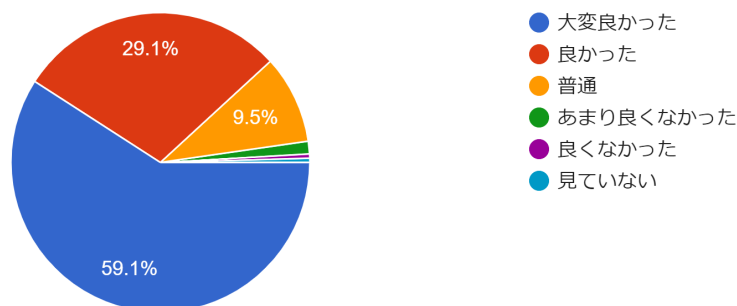
生徒の質問がすごく興味深かったのもう少し、質問の時間を増やして欲しかったです。

特に日本と英国の教育の違いは興味深く、色々と考えさせられました。

「対話」が何より価値あることなのだということが、ディスカッションの中で共通して挙げられていたと感じた。様々な分野の第一人者が議論していて、こちらも沢山考えながらそれを拝聴することができ、意義があったと思う。

4. 研究発表・審査会について

220件の回答



<研究発表・審査会についてのコメント（任意）>

ポスターの発表会場が少し密集していた。

数学の発表に関して内容に踏み込んだ質問が貰えなかったのが悲しかった。

生徒からも質問をさせてほしい

ポスター発表が楽しかった。たくさん質問できて勉強になった。

普段専門的な研究をしている方々に、研究の改善点についてたくさんアドバイスを頂けたので、とても参考になりました。

普段出会うことのない人たちと出会い、発表を聞くことができ、本当に貴重な経験になった。

自分の想像以上に、素晴らしい発表が沢山あって感動した。自分もこれから頑張ろうと思えた。

研究をする上で新たな視点を得ることができ、自分達の研究の改善点を知ることができた

様々な生徒の発表を見ることができ、今後の指導の参考になった

他の人の発表についてもっと見る時間が欲しかったです！冊子を出来れば大会前に見ておきたいです

皆レベル高すぎです。

一部で根拠が必ずしも示されていない発表が高く評価されているように感じました。

先生方の質問、アドバイスに愛が溢れていました。

今まで多くの研究発表をしてきましたが、1番真剣に質問、アドバイス、感想をもらえた印象が強いです。

高校生なりの研究手法について知ることができたので、今後の指導に役立てたいと思います。

どの高校生も一生懸命に研究、発表をしていて刺激をもらいました。

観覧者が多いので、ポスター発表が聞こえにくかった

ポスター発表において隣の発表人数が多いところだと隣の発表者と軽くぶつかったりしてしまう点がありました。

自分の研究に対して客観的でかつ専門的なご指摘を頂けて、大変勉強になりました。
ポスターは計4回出来たが、2回目は聴衆がおらず発表が出来なかったのが悔しかったです。
すごかったです
自分の研究について真剣に質問してくれたことがよかったです。とても価値のある議論ができました。
発表者、参観者、審査員の方々それぞれの熱量を感じることができました。対面ならではの良さが十分に出ていると思います。
大変貴重な機会だった
ホールのスクリーンが暗くて見づらかった。
ポスター発表の運営が最初ぐだってしまったが、発表はどこも熱気が困っており素晴らしかった
貴重な意見がもらえてよかった
もう少し空間的に余裕がほしいと思いました。
色々な生徒がいるため、生徒によってプレゼンの仕方や検証手段などの違いが見られた。
もっと頑張ります
審査員の方や、発表を見学していただいた方々が様々な意見・アドバイスを寄せて頂いたので、来年はもっと良い研究ができそうです。
初めて参加しましたが、周りの高校生のレベルの高さに大いに刺激を受けました。
全国のレベルを知ることができ、改めて自分の研究活動について考えさせられた。
審査員の方々の質問が他の大会とは比較にならないほど鋭くて今後の研究に役立つと思います。
ポスター会場のサイズが熱気が伝わる意味では丁度良いのかもしれませんが、少し狭い印象でした。内容は皆さん素晴らしかったです。できればポスターが貼りっぱなしにできるともっとじっくり見て回れると思います。
とても面白かったです。
コロナ感染対策が不十分であったように思った。あまりに密で、声が聞こえなかった。
審査員の中には、短い発表時間の中で研究内容を理解した上でこれからの研究に役立つことをご教授くださる方がいらっやあってありがたかった。
みんな発表と研究内容のレベルが高くて本当にびっくりした。また、自分の研究を伝える意欲もすごくて自分がもともと興味のないものでも楽しく聞いた、周りのレベルの高さを感じ、新たなモチベーションができた。
フィードバックを受けて自分たちの研究に新しい気づきを得ることができて良かった。また、これからもがんばろうと思えた。
全国からの高校生の面白いテーマを見て新しい視野で考えることができ、よかったです。来年からの探求に参考になりました。
様々な分野の研究発表を同時に行っていたことで、普段自校の生徒が研究しないテーマについても聞くことができ、とても勉強になりました。
かなりレベルが高かったです。内容もちろんですが、熱意や本気度のレベルが高く、期待以上でした。
ありがたい意見や、視点をもらえた。質問し合ってより高め会えたと思う
第3会議室において、スライドの上半分しか見えなかったのが残念だった。
どの発表も熱意があつてすごいと思った。これからの探求で活かしていきたい。
研究発表については自分の発表についてのフィードバックを貰えたり、新たな視点をいただくことが出来て良かったです。今回の実験では初期段階の実験を行ったのみだったのですが、今回もらったアドバイスをもとに、今後の追実験を行っていきたいです。
レベルの高さに驚きました。
発表もですが、聞く姿勢、積極的に質問する姿勢がすばらしく、発表しがいのある会でした。
同年代の発表を見れて大変勉強になったと思います
ポスター発表は熱気がすごく、生徒の熱意を直接感じる事ができた。
特に文系ですが、審査員の個人的な意見や立場が審査に関わりず着ている気がしました。

ポスター発表では、始まる時間やポスターの張り方など不明確な部分が多かったが、審査員の方や高校生と自分の探求テーマについて議論できてよかった。

初の対面でのシンポジウム参加でしたが、やはり対面での場の熱量が素晴らしかったです。このような場を経験させていただきありがとうございます。

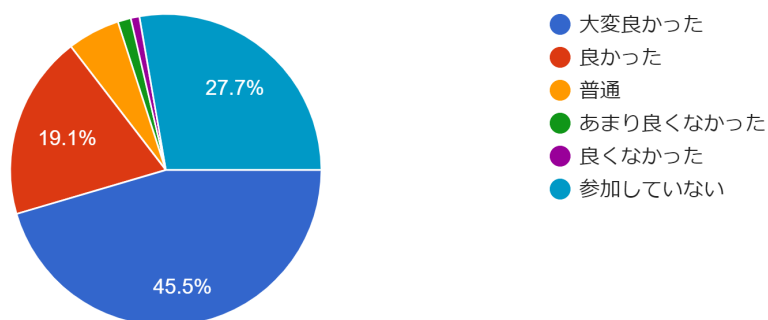
自分の発表前までの発表は正直、緊張と不安で何も入ってこなかった。発表時間を超えないようにすることが1番難しかった。マイクをスタンドに置かせて欲しかった。スクリーンが少し見にくかった。

発表自体は素晴らしいものでした。ただ、以下の点を今後の運営として検討いただけるとありがたいです。
・同じ学校から複数の分野で発表がある場合、発表が同じ時間帯に重ならないようにしてほしい。
・口頭発表とポスター発表は時間を分けていただきたい。
・口頭発表ではレーザーポインタを用意しておいていただきたい。用意できない場合は事前に持参が必要な旨を伝えておいていただきたい。
・ポスター発表の会場が狭く換気も不十分だったので、より広いスペースで実施していただきたい。

普段なかなか受けられないような、鋭い視点からの高度な質問を頂いて、研究をより深めるきっかけになったと思う。意欲が湧いた。

5. 生徒交流会について

220 件の回答



<生徒交流会についてのコメント（任意）>

色々な県の人とお話出来て新鮮で楽しくて良い経験になりました。

他校の方や、いろいろな先生とお話出来てよかったです。

意見・感想の交換ができてよかった。

思っていたよりもたくさんの人と話して、お互いのことを知ることができました。

もう少し時間がほしかった

いろいろな人と話すことができてよかった。話す人が固まりがちなので何か企画とかもあつたらもっといいなと思いました。

いろんな学校の高校生と探求の話ができてよかった。

コネクションがたくさんできるので、いい刺激になりました。

地方の方と喋れるのは新鮮でいろんな研究をしている子と話せて楽しかったです。みんなとても積極的でした。

一期一会。がとても良かった。真面目にやったことを誉めあえて平和。

他の県に新たな友達ができただけで良かった。

他の大会よりも生徒の積極性や自主性が高く、意見交換も大変盛り上がった

発表を、聞くことが出来なかった方とお話をして刺激がもらえました。

全く違う分野の高校生や、興味のある分野のプロフェッショナルとお話する機会をはじめただいてすごく楽しかったです。

全ての学校行けませんでした

話すグループをしっかりと決めてほしかった。

審査員の方から評価をもらえた 審査員に疑問を聞いたり質問できた
良い経験ができたと言っていました。

自由に交流することが出来たことは良かった。ただ、他部門の生徒との交流は、あまりできなかったかなと思う。

あと1時間

色々な地方の人と会話し、新しい価値観や、考えについて知ることができたのでとても有意義な時間を過ごせた。

完全に自由という形にすると話したい人が見つからなかったり、交流しきれなかったりしたので工夫があると嬉しい。

質問をしたら、大変丁寧に答えて頂けて嬉しかったです。

普段は話せないような自分の活動地域外の生徒と話せて楽しかった。

もう少し広いところで行いたかった。話がしづらかったりした。

みんな凄かったです

学校内での考え方でもかなりバラバラなのに、全国に出るとさらにバラバラで被ることがないということに驚いた。

場所が狭かったので、もう少し広い場所で行うと良いと思う。

自校の生徒が他校の生徒と積極的に交流でき、たいへん有意義だったと生徒が述べていました。他県の同年代と話す機会はとても貴重なので大変ありがたかった！

生徒はとても有意義であったと言っています。

今後の進路の大いに役立つコメントをもらえてとてもよかったです。しかし、たくさんの先生がいて自分の興味のプロフェッショナルはどの先生なのかがわかりにくかった。

部門ごとに分け無い方が良いと思いました。

他の学校の環境やどのように研究を始めたのかなど、視点を広げることで参考にもなるし、刺激を受けることができました。

各地の高校生と話すことが出来て楽しかった。全く違った分野を研究した人とも話すことができ、新たな視点や研究方法を知ることが出来た。

初めは話しかけれませんでした。後半になるとどんどん話せるようになって良かったです。フリーに会話でき、たのしかったようです。

いろんな地域からの高校生とたくさん交流することができた。滅多にない機会なので、楽しかった

他県の人から自分達の研究対象がどのように認識されているかを知れて良かった。

東京の生徒と会話出来て、都会と地方の違いについて語れたのが良かった。

自分が気になった発表をした子に詳しく話を聞きに行けたり、疑問に思ってたことを質問したりすることができて大変有意義な時間になりました。たくさん刺激をもらうことができて良かったです。

写真を撮りに行きましたが、大盛況でした。

違う学校の人との交流はとても楽しそうでした 審査員の方から直々にアドバイスがもらえ今後の研究の方向性が見えてきたようです。

生徒から積極的に声をかけてもらい質問に答えさせてもらった。生徒の積極性には舌を巻く。

遠い都道府県の高中生と話してそれぞれの高校の探究の特色や、他の生活面でも質問しあい、学ぶことが出来て良かった。もう少し広いところで開催すれば更に話しかけやすくなると思う。

山形のお菓子を配って宣伝しつつ、みんなの探究に対する熱を直に感じられた。

様々な学校の探求の内容を聞くことが出来て、興味深かった。また、審査員の方に自分の探求の講評を頂けたのでとても良い経験となった。

生徒の声を聞く限り、とてもいい刺激になったようです。

生徒の数に対して審査員の方の数が少なすぎるので、待ちぼうけしている人が結構いた。生徒間での交流は少ないように見えた。冊子で興味を持った他部門の人の研究を聞きに行きたかったが、人が多すぎて探すことができなかった。(ネームプレートが役に立たない) 部屋が人の色

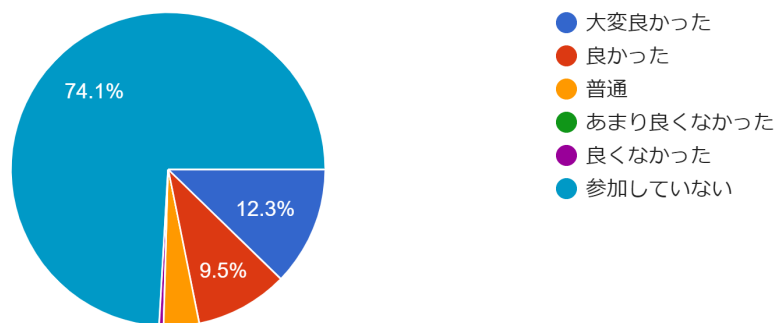
々な熱でとても暑く、空気が悪かった。審査員の方々は発表の質疑応答の時にはとても厳しい言葉を使われていたが、実際に話すと、頑張っしてほしいと応援の気持ちがよく伝わってきて、とても嬉しかったです。

自分と同年代の全国の子がどんな考えを持っていて、どんな研究をしているのかを知って良い刺激になりました。

全国の生徒と交流できて楽しかった。相手の研究に刺激を受けるのはもちろん、全国の普段交流する機会のない場所の生徒と、お互いの文化について紹介し合うなどできたのがよかった

6. 教員研修について

220 件の回答



<教員研修についてのコメント（任意）>

他校の取り組みや困っていることなどを共有できたことは、非常に良い経験であった。時間帯が遅くなるのが難点だが、このような取り組みはぜひ今後も続けて欲しい。

他校の先生方と直接意見交換できる機会があってよかったです。

探究の抱える悩みや方向性を確認できて、大変有意義な時間だった

研修の終了予定時刻かホームページでの申込時に書いておらず、当日に知りました。生徒を引率しているため、おおよその時間でも事前に知りたかったです。

大学の先生方から貴重な好評をいただけて、今後の自分達の発表を発展できると思うと嬉しいです。

学校格差を感じて勉強になりました。

他県の様子を直接聞くことはないので、とても良い機会でした。

限られた時間だったのが残念でした。

他校の様子も含め諸々の参考になり今後の学校教育改革を考えるきっかけとなった。

他校の状況など、全く見えていない部分が多かったので、他校の指導状況を学べてありがたかったです。

各校の先生と交流できる貴重な機会でした。

質問コーナーでは、野村先生にお答え頂きたかった。後方で待機していただけでした。配慮が大切です。

課題研究を授業の中で行うにあたり、一番自由に学べる時間だということを伝え、生徒が自主的に取り組んでいけるように投げかけて行きたいと思いました。また他校でも同じような悩みを持たれている学校があることを知り、悩みを共有することができ、とても勇気をもらいました。ありがとうございました。

アイスブレイキングするにはもう少し対話の時間が欲しかったと思います。

学校格差を感じました。うちはまだまだです。

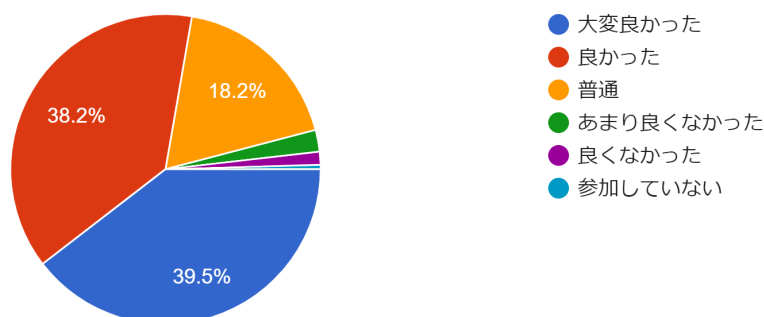
多くの刺激をいただきました。

中高一貫の学校のメリットを改めて気づくきっかけになった。多くの気づきを頂き、とても貴重な場となった。

新たなアイデアを得ることができました。
課題探求の指導について役立つ情報交換ができた。
各学校での状況や抱えている課題はそれぞれだと思うので、ただグループ内で順に情報を共有していくのではなく、事前アンケートなどで特に議論したいテーマなどを選び、目的別にグループを作って話ができるとよかった。また、6人グループで教員間の新しい出会いと交流が限られていたので、もっと入り混じって出会いを増やせるようなワークになればよかった。

7. 表彰式・講評について

220件の回答



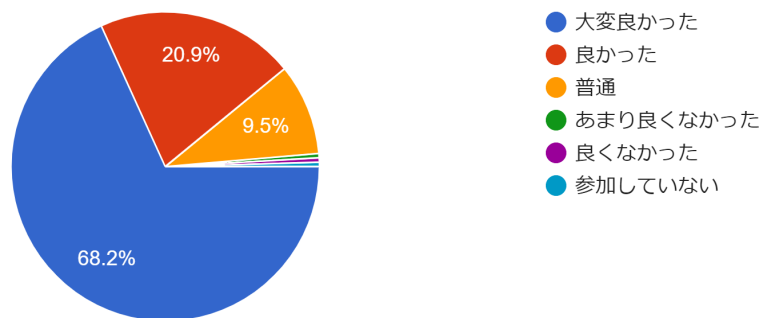
<表彰式・講評についてのコメント（任意）>

ポスター発表の公表もぜひ詳しく聞きたかったです。
各発表の内容の紹介があったが、それはなくてもよかった。
生物学分野の先生の講評が素晴らしかったです。
講評になっていなかったのが複数あった。
他の分野の審査員の考えなどをうかがうことができよかったです。
客席の照明を落としてもらった方が見やすかったと思います。
出来ればポスターの部門についてもスライドと同じようにして欲しいです。
講評が長かった
先生方には感謝しかありません。
審査員の中には、もう少し話が短いと伝わりやすくなる方がいらっしゃいました。
先生によって全てのグループに触れたり全体だったりしたのでどちらかに統一して欲しい
できれば一つ一つの発表を紹介してくれたら嬉しい
効率よく、進められており、順位をつけることに対する考えも述べられていて、とても良かったです。
講評はもっとコンパクトにして、交流の時間が欲しい
時間上仕方ないことだとは思いますが、もう少し個別に研究についての指摘をいただきたいかったです。
どういう発表が高評価なのか知ることができ、次に活かすことができそうです。
スライド部門に対する講評が長く、個々に対する評価があったのに、あまりよく聞き取れなかった。スライドの講評で個々について評価するならば、パワポ等にまとめて簡潔に話してほしい。
それに対しポスター部門に対する講評が短かった。その後の座談会にいらっしゃっていない先生方もいたため、十分にフィードバックが聞けず、残念だった。
前半の講評はどんな発表だったとかは不要だったと思った。後半は汎用性のあるメッセージで参考になった。
とても丁寧に講評して頂いたのでよかった。
高校生扱いをしないコメントが嬉しかった。
表彰が午前中なのは良いと思います。
専門家の目線が知れてとてもよかった。

どういった点が研究において重要なのが解説されたので、とても参考になった。
 他の発表を全部見ることはできなかったが
 丁寧にご講評いただきありがとうございます。ごさいます。
 部門ごとにやや温度差があるように感じましたが…
 表彰がスムーズだったので飽きずに見ることができた。
 他分野の方へのフィードバックなど、今後の実験を展開していくときの注意点などを聞くことが
 でき、たくさん参考にできることがあって聞くだけでなく活用していきたいと思いました。
 先生方の愛を感じました。
 撮影して良いか迷っていたところ撮影の案内があり、貴重な場面を撮影できました。ただし、
 結果発表の画面が暗く、席からよく見えませんでした。
 特に理工系分野の講評が面白く勉強になった。やはり基礎研究に携わっている教員の方は貴重
 な存在だと思った。
 詳しく講評してくださったのでよかった。
 各部門ごとに全ての研究の内容を少しだけ紹介をするのではなく、全体に、研究をすることに
 対してのアドバイスを講評としてされていた方はすごく勉強になった。
 時間の問題はあると思いますが、優良賞・優秀賞・最優秀賞は画面でパッと出すのではなく、
 順に発表していただける方が、緊張感と高揚感があって良いです。
 講評は的確で、こちらも考えさせられる部分が大きかったが、スライドに結果を少しの間写す
 だけでは、どの研究が表彰されたのかがわかりにくいと感じた。個人情報保護の観点があつた
 り、時間的に厳しいのかもしれないが、表彰された発表一覧のようなものを印刷して帰りに持
 ち帰ることができれば、参加者としては発表会を後で振り返りやすいと思う。

8. 進路座談会について

220 件の回答



< 進路座談会についてのコメント (任意) >

進路を考える上でとても参考になった
 高校生や教員の疑問に即した質疑応答であった。
 参考になった
 失敗体験についても詳しく触れていただきたかった。成功体験をみるのも大切だとは感じたが、
 失敗から学ぶ事の方が良いという、1日目の論旨に従った公演が聞けるとなお喜ばしく思った。
 勉強になりました。
 大学でどのように探究をいかすのか学べた。
 大学生さんたちの話がとても面白かった
 自分の志望している大学について考えていたのだが、とてもためになった。
 もう少し登壇者の方たちの対話を聞きたいと感じました。司会者と一対一のやり取りでは、引
 き出せる情報に限りがあると思います。
 成功していらっしゃる方がそれぞれ本当は紆余曲折していてどのような決め方をすればいいの
 かなど進路について深く考えられました。

同世代のきたが似た悩みを抱えていることがわかったのと、ちょうど考えていた悩みについて話されていたのでタイムリーでした！

今進路について悩んでいたのも自分で考える大切さや先生方の経験などを聞いて活かせると思いました。

二部構成が良かったと、おもいます。

20代のリアルがわかったのはすごく良かったです。この話を聞いて、他の課外活動とか勉強とかやる気が少しでました。

初めの方はただ聞いているだけなので正直あまり入ってこなかった。もっと生徒からの質問に答える場にすれば良かったのではと思う

いままでグローバルという言葉納得いってなかったのですが、円の端だけではなくて中心も考えるというご意見で腑に落ちた気がしました。

審査員の方々が本気で相談に乗ってくれた。今まで相談した大人の中で最も心に響くアドバイスをもらうことができた。

生徒に解答や発言を求める場面など、参加の要素があればより良いと感じました。

私たちの少し先輩の話を知ることが出来たので、進路についてまた新たな考え方ができるようになった。充実した時間だと感じた。

生徒交流会と同様に、完全に自由という形にすると話したい人が見つからなかったり、交流しきれなかったりしたので工夫があると嬉しい。

内容自体も大変面白かったが、質疑応答の際も丁寧に回答していて大変良かった。

動くことの重要性と動かないことで起こりえる状態について考えさせる良いヒントになった。とても良かった。価値観が変わった。将来に役立てたい

先生方のお話の中で、自分に当てはまることが多くあり、参考になった。

興味のあることを続けることも重要であるが、必要性を考え、何かを辞める勇気も必要であることがわかった。

納得感、やってみなきゃ分からない、15年後後悔しないようにや貴重な人生の話を聞いて、人生変わるかと言うぐらい有意義だった！

岡本先生が育てたり関わる研究者のお話はどれも貴重でためになりました。勇気がでるお話でした。

自分が考えられる以上のことを聞いてたくさんの固定概念に囚われない考えを知れてよかった。自分の進路について悩んだ時の指針となるような話をたくさん聞くことができすぎてすごく有意義だった。

自分自身も悩んでいることであるため、とてもためになりました。やりたいことでも今後生きていく上で本当にそれで食っていけるのかなど普段から色々考えることは多いですが、今回の話を一つの指標として、投げ出さず、今後も向き合っていきたいと思えました。

年代が近い方のお話を聞くことができとても楽しかった。特に印象に残っているのは、グローバルの考え方についてで、鹿児島も中心ということにとっても納得した。

素晴らしかった

未来に不安を持つ生徒に対して、歳が近い人からのメッセージがとても良かったです。

進路を改めて考え直すことが出来てとても良い機会となった。

生徒達が普段触れ合うことが出来ない方々の生の声はとても興味深かったと思います。私自身、医学部医学科から理学部化学科へ編入して教員になったので、生徒達も「納得いく道」を進んでいって欲しいです。

面白いお話をたくさん聞けた

若い方の意見が沢山聞いて、共感することも多かったのでおもしろかった。

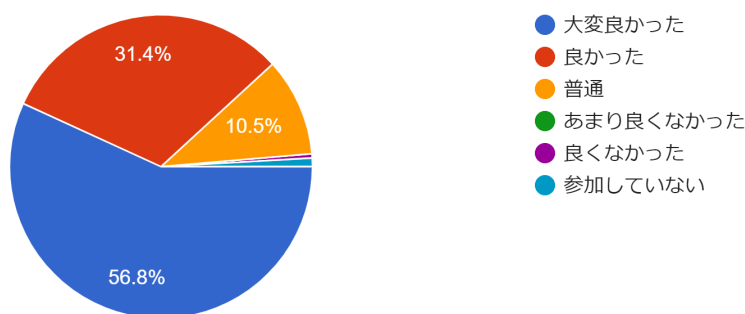
浪人についてのイメージがあまり良くなかったけれど、浪人になってしまったときモチベーションなどを教えていただき大変参考になりました。

実際に様々な人生を送ってきた方々の話を聞いて良かったです。第一部と第二部で世代が違ってまた異なる視点でのお話を聞けたのは良かったなあと思いました。もっと色々聞きたかったなあと思いました。

二部構成でも、もっと聞きたかったです。
多くのヒントや刺激がありました。
特に大学生の方々が良かった。社会科学を工学的アプローチで行う必要性を訴えたところが、もっとも響いた。
実際の大学生の話を生で聞けるのは初めてで貴重な時間だった。失敗談も話して下さったことで大学生活を色々と想像できた。
自分の進路についての考え方が広がった。
同じ世代の意見や発見を聞けるのが1番良かったので、質問の時間を増やして欲しかったです。色々な進路先の可能性を聞いたのがよかった。
進路座談会を聞いて自分の考え方が大きく変わりましたし、世の中の見方も変わりました
進路座談会は、表彰式や講評よりも前にやっていただいた方が落ち着いて聞けるように思いました。
世代的に私の少し上の年代の方が、何を課題研究の上で指針にしたり心がけたりしていたかを知ることができて、有意義だった。

9. 優秀発表・グランプリ発表について

220件の回答



< 優秀発表・グランプリ発表についてのコメント（任意） >

上には上がいることを痛感した。いい刺激になった。

生徒からも質問をさせてほしい

最優秀賞をとっただけあって、ほかとは頭1つ抜けている研究だと思った。研究内容だけでなく、発表の仕方(スピード、抑揚、大きさ)なども聞きやすかったり、興味を引く話し方をしていて尊敬した。また、難しい質問などにもしっかり答えられていてすごいと思った。いい刺激を貰った。

おもしろかった。ら

他の分野の方のプレゼンを聞くことが出来て良かったです。

自動共振振りの発表をしていた関さんが大学の教授のように早口で話していて、質問の時間の時にも先生と議論をしているような感じでとてもすごいなと思いました。

ここの問いの文章誤字ってます

午前の最初に結果発表というのが、あっさりしていた感じが否めないです。せめて午前中の最後あたりがタイミングとしてはよくないですか？

こんなに高度で専門的な研究をやっている人が同じ高校生にいるのかと驚かされました。自分たちの研究の至らない点や中途半端な点に気付かされました。

レベルが高かった

優秀発表の発表をみて発表のテクニックやどんな質問が来るのか知ることが出来た。次に活かそうです。

どれも素晴らしく日本の未来は明るいかもしれないと思えた。このような会を開いていただけからこそみんな頑張るのだと思うので関係者の皆様に感謝申し上げます。

グランプリにポスターも入れてほしい

どの発表も熱量がすさまじく、テーマへの強い愛着を感じました。

これからも続けて言って欲しい

皆さん素晴らしい発表でした。

素晴らしい研究ばかりでとても面白かったです。

自分たち以外の発表についてはあまり見る事ができていなかったの、自分でマニアックに一つの事を突き詰めていく姿に感銘を受けた。

物理がすごかった

効率的な受賞式で良かったです

やはり、最優秀賞の人たちは全員クオリティーが高く、内容面だけでなく発表も上手だったので、たくさん学ぶことができた

優秀者の発表を聞けるのは大変勉強になった。

同世代の方たちが英語で発表や大学レベルの研究を行っていることに驚きました。

各分野の優秀発表を聞くことができるととてもワクワクしました。グランプリをとったザリガニの胃石の研究は実験の筋が分かりやすく、自分の考えなどを明確に示していて、質問の意図もしっかり汲み取って応答していたのがたくさんの思考を繰り返して、ザリガニが本当に好きなんだなと思ってすごいなと思いました。

ザリガニくんを一押しだったので、グランプリで嬉しかったです！

質問方法が不公平で、生物に決まっているかのような感じがしました。

各最優秀賞の発表を続けて聞くことができ、たいへん良かったです。

ザリガニの研究をした高校生は大学の学部生並みの研究成果、受け答えには関心した。

審査員と、発表者の白熱した議論は見応えがあった。

審査員が、発表者を高校生としてではなく、イチ研究者として扱い、質疑応答をしていることが素晴らしいです。

少しひとりよがりになっている発表があるように思った。できれば、聴衆が全く知らない分からないのを前提とした発表を意識して欲しかった。

グランプリの研究は大変良かったです。

各分野の優秀発表を改めて全体で聞いたのが良かったです。質疑応答の時間をもう少し取っていただいて、より白熱した議論が聞けるといいなと思います。

研究内容のみならず、発表の仕方やジェスチャー、質問への答え方なども素晴らしい発表を見ることができて、刺激になった。

10. その他コメント等ございましたらこちらにご記載ください（任意）

楽しかったです。ありがとうございました。

弁当が酷い

貴重な機会ありがとうございました

全体的に長かった

たのしかった

2日目は帰りの交通機関の時間などが皆さん決まっていますから、進行は定刻通りでタイムマネジメントをお願いします。

運営等、本当に大変だと思いますが、このような大会を開催していただいて、参加者としては本当にありがたく思います。ありがとうございました。

次回も参加したいと思える貴重な体験ができ、現場に持ち帰って、よりよい探究をしていけるよう指導していきたい

私は正直これまであまり中心的に探究を進めるポジションにはいませんでしたが、自身が参加し、また生徒に他の生徒の優秀な作品を見せることができ有意義な会でした。

今中学1年生を担当しています。3年後一

生徒交流会の場所が狭い。あと、審査の人や、20代のやつにいた人と話す時間ももっと欲しい。第八回高校生国際シンポジウムのホールの看板が、プロジェクターに少し影を作ってる貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。この大会に来ていないと、出会えなかったたくさんの人に出会えて、楽しかったです。

生徒交流会の場所が狭かった。

参加出来て良かったです。ありがとうございました。

楽しかったです！ありがとうございました！

スライドが見えにくいので、もっと広い会場でも見えやすいプロジェクターが必要だと思いました。

貴重な機会をありがとうございました。

今まで参加したすべての大会で間違いなく最も生徒と審査員のレベルが高く、議論も活発でもとても充実した二日間でした。ありがとうございました。

二日間楽しめました。ありがとうございました！

シンポジウム開催にあたり、事務局の皆様、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

発表だけでなく審査員などの学歴や生き方、考え方が自分とかけ離れた素晴らしい人と実際にお話をする機会を設けてください、大変良い機会だった。

パネルディスカッション、座談会ともに、自分の将来のあり方を考え直す、いい機会になった。

また、自分の進みたい進路に対して、自信を持つことが大事だと改めて思った。

運営ありがとうございました。貴重な経験でした。

学べることが多く、大変貴重で、楽しい時間になりました！主催者様及び準備をされた方々、審査や講評をされた方々に大変感謝申し上げます。

お世話になり、ありがとうございました。たくさんの学びをいただき感謝です。

ありがとうございました。大変勉強になりました。千葉県で教員をやっております。私のクラスは能力にかなりの差があり、探求活動をどう進めればいいのか悩んでいました。今回の国際シンポジウムの参加生徒の皆様もかなりの高いレベルの生徒さんが多い中、自分の好きなところからリサーチクエッションを立てることの重要性を実感いたしました。またそのテーマに対しての熱意を感じました。今後の指導に生かしていきたいと思っています。

大変刺激になりました。ありがとうございました。

はじめての参加でしたが、夢のような2日間でした。本当にありがとうございました。

貴重な機会を提供くださりましてありがとうございました。二日間の濃密な日程で、岡本先生の熱量が参加者全体に伝わっていくのが感じとれる時間でした。大会自体が心理的安全性が確保されていて、互いにリスペクトし合う雰囲気があるからこそ、自己実現に向けた夢を語り合える場所になっていると感じました。学校現場も、このような雰囲気を作れるように工夫してまいりたいと思いました。ありがとうございました。

司会者からの課題研究メソッドの営業はやめてほしいです。話のところどころで出て来ます。使っていないことが不利にならないとは思いますが、審査に関わっていない人間は、疑ってしまいます。

2日間で色々な人に出会うことができ、とても刺激となりました。ありがとうございました。

高校生のみの応募に対して、中学生も混ぜていただき、とても良い経験をさせて頂きました。私自身もシンポジウムに参加させていただき、これからの課題研究活動への意欲が高まりました。このような機会をいただき、誠にありがとうございました。

お弁当が同じような感じでツラかったです

来年も開催希望です。

同じ学校の生徒が、別会場で同じ時間だったので、ビデオカメラとパソコンのCタイプのコネクターを一つしか用意しておらず焦りましたが、コネクターはお借りできて助かりました。ビデオカメラはデジカメでなんとかなりました。オーラル発表が面白くてぜんぶ見てしまいましたが、ポスター発表も見なかったです。岡本先生とお話できなかったことが残念です。また来年、生徒と一緒に参加したいです。

勤務校の先生たちをできるだけ連れて来たいと思います。

単なる発表会ではなく、学び、出会い、刺激がある大会でした。また、高校生の力にたいへん驚かされました。参加生徒の一生に大きな影響を与える大会だったと思います。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

最優秀賞の5人がプレゼンしたあとの質問に対してですが、一人目に対して根拠、根拠とトラウマになるかのような質問の仕方でした。ザリガニには、質問しながらホルモンですか？と答えを言い、しかもホルモンの根拠を求めない。不公平である。

最優秀賞5人への質問の仕方について、一人目には根拠、根拠と追い詰めトラウマになるかのような質問に対して、ザリガニにはホルモンですか？と答えまで話す審査員。しかもそこには根拠を問わない。見ている人達は、なぜホルモン？？となっているメカニズムが不明のまま褒めて終了。5人それぞれの審査基準に対する点数の表示もないのは納得感がないグランプリではないか？会場にいた人達はどう評価したかも知る方法があればいいですね

来年は発表者として参加したいです。

様々な分野の本物の方々と対話する機会をいただけて、素晴らしい経験ができた。

とにかく素晴らしい機会に恵まれてとても良かったです。審査員の方が理系が多かった気がしました。（主催者の方が理系で、その繋がりがメインだからでしょうか）長時間動けないのでなかなか体力的にきつかったですが、移動の混雑など考えても平日開催で助かりました。マイクスタンドは使わせて欲しかったです。また、私たちの研究について審査員の方に話を伺いに行ったら、研究内容について誤解されていて（3人のうち1人がそうで、残りの2人にそうだったのかどうか問い合わせたらそうでなくて安心しました）、少し残念でした。終わってからバスが出ているのは嬉しかったです。最後時間後多少おしたとき、岡本さんが時間を見て話し始めて、きっちり時間内に話し切ったのが一番最後、印象的でした。

とても得るものが多いシンポジウムで参加して良かったなと思いました。これからの生活や探求活動にこの2日間のことを活かして行けたらなと思います。

シンポジウムの開催、運営ありがとうございました。生徒ともども、大変刺激を頂きました。様々な方々と出会い、刺激を頂く場として、来年も1人でも多くの生徒を鹿児島に連れて来たいと思います。本当に楽しい2日間でした。

行動に起こすということがどれほど大切なのかということが十分に理解できたので、これからの学習、人生に活かしたいです。とてもいい経験となりました。ありがとうございました。

プレゼン発表に選んでいただきましたが、我々の想定する分野と異なる系統に分類されました。審査員にご高評をいただいたのですが、系統に合わない発表だったと指摘されました。多様な発表があるので審査が難しい事はわかりますが、系統が変わった事で不利にならないような配慮をお願いしたいです。

この高校生国際シンポジウムに参加できて本当によかったと改めて感じました。

昼食はぜひ、「鹿児島」を感じられる駅弁のようなお弁当やオードブルにしてもらえると生徒も喜ぶと思います。なかなか観光など鹿児島を満喫できる時間の余裕がないスケジュールなので、遠方から来る生徒にとって、少しでも鹿児島の気分を味わえる様にしてほしいです。

発表順・研究タイトル一覧

スライド発表

①人文科学・教育分野

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|------------------|--|
| 第1部 | 市川学園市川高等学校 | Nutritional value of rations and pursuit of health in wartime |
| | 佼成学園高等学校 | 天守の意匠としてなぜ鯨を据えたのか |
| | 学校法人神村学園高等部 | コロナ禍がもたらす教育への影響—成績分布の変化とその要因の調査— |
| 第2部 | 高知学芸高等学校 | 社交不安障害を改善する生活モデルの提案 |
| | 大阪教育大学附属高等学校平野校舎 | 「女性の権利としての中絶」に対する高校生の認識および考察 |
| | 学校法人神村学園高等部 | 正すべき言葉の乱れ |
| 第3部 | 市川学園市川高等学校 | Roles of Women's Makeup During WWII Interpreted from Cosmetic Advertisements |
| | 宮城県仙台二華高等学校 | 戦災の伝承の比較 -カンボジア内戦と広島原爆の例から- |
| | 鳥取県立倉吉東高等学校 | 英文理解への近道 |
| | 学校法人神村学園高等部 | 映画批評から考える日本人の「自己」と「他者」—早川雪洲への批評を中心に— |

②社会科学・環境・防災

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|------------------|---|
| 第1部 | 山梨県立甲府西高等学校 | タイ王国の農村部を対象とした栄養調査の実施および考察 |
| | 佼成学園高等学校 | 乳幼児連れの親が安心・快適に航空機を利用してもらうためには |
| | 静岡県立焼津中央高等学校 | SDGsを身近に楽しむ～海洋ゴミのアップサイクル～ |
| 第2部 | 新潟県立津南中等教育学校 | 未来は変えられる「事前対策による減災」～自分事意識を育む防災教育～ |
| | 広島市立広島中等教育学校 | 自然災害時の早期避難意識形成についての提案 |
| | 高知学芸高等学校 | 高知県黒潮町の独自の観光資源を活かした旅行客増加策の検討 |
| 第3部 | 兵庫県立姫路西高等学校 | 独自指標作成と階層クラスター分析を活かした兵庫再生計画の提案 |
| | 明星高等学校 | 竹害と竹材の需要増加について |
| | 東京学芸大学付属国際中等教育学校 | これからの地域に必要とされる自治会とは？～首都圏ベットタウンの住宅地を対象として～ |
| | 兵庫県立姫路西高等学校 | 播磨地域の特異点を重回帰分析により探る |

③数学・物理学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|--------------|---|
| 第1部 | 鹿児島県立錦江湾高等学校 | なぜ、サクラの散り方は美しいのか？～日本の美を科学する～ |
| | 広尾学園高等学校 | 3を底にもつ完全数になるための必要条件 |
| | 鹿児島県立国分高等学校 | ボルタ電池の放電後、電解液が黄色になる?! |
| 第2部 | 安田学園高等学校 | サーモクロミズムを利用した熱で性能の下がらない色素増感太陽電池 |
| | 広尾学園高等学校 | 偶数完全数の単倍数である調和数の harmonic seed の一意性について |

| | | |
|-----|---------------|------------------------------|
| 部 | 芝浦工業大学柏中学高等学校 | 自己共振振り子の成立条件の解明 |
| 第3部 | 芝浦工業大学柏中学高等学校 | 小規模データセットを使った画像分類の正解率と速度について |
| | 広尾学園高等学校 | 電車における降車からエスカレーターまでにかかる時間の考察 |
| | 神戸大学附属中等教育学校 | 耐量子暗号を用いた学力試験の秘匿計算処理について |
| | 東京都立大泉高等学校 | JasperNet：顔動画像解析による日本語の発話予測 |

④植物学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|---|--|
| 第1部 | 香蘭女学校高等科 | 藻の生物利用による物質生産～光合成の出来る繊維製品の開発の可能性を探る～ |
| | 東京都立大泉高等学校 | アジサイの葉の抗菌性に関する研究 |
| | 市川学園市川高等学校 | Creating Sanitizing Wet Wipes with Banana Stem Fiber and Cotton |
| 第2部 | 熊本県立鹿本高等学校 | 植物の細胞分裂にアロマオイルの香りは影響するのか |
| | ザイオン・クリスチャン・アカデミー・インターナショナル 東京都立大泉高等学校 | スナゴケ (<i>Syntrichia ruralis</i>) の大気質改善能力の評価 桜の香りのフェノロジー ～季節と葉の成長によってクマリン量はどのように変化するのか～ |
| 第3部 | 横浜市立南高等学校 | 新たな藻類バイオマス！アオミドロの可能性を探る |
| | 須磨学園高等学校 | 踏みつけがメヒシバとオヒシバの分布に及ぼす影響 |
| | 東京都立大泉高等学校 | 樹木精油抽出量から生態系サービスを評価する |
| | 大阪府立岸和田高等学校 | 薬草ドクダミの魚病予防・治療への可能性 |

⑤生物学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|---------------|------------------------------------|
| 第1部 | 佼成学園高等学校 | カルシウムがザリガニに与える影響 |
| | 岐阜県立岐阜高等学校 | 幼児による高吸水性ポリマーの誤飲事故に対する開腹手術回避の方法の提案 |
| | 鹿児島県立錦江湾高等学校 | なぜ、ギンボシザトウムシはクモの巣に引っかかるのか？ |
| 第2部 | 早稲田佐賀高校 | 痛みの想起における不快感情とそれに影響を与える因子に関する考察 |
| | 安田学園高等学校 | クロマルハナバチの雄蜂で生じる倍数化が行動特性に及ぼす影響 |
| | 徳島県立城南高等学校 | ナミウズムシの摂食行動とその再生 |
| 第3部 | 広島県立広島国泰寺高等学校 | 甲虫で里山の遷移の評価をしよう |
| | 須磨学園高等学校 | セミの鳴き声がシロツメクサの初期生育に及ぼす影響 |
| | 三田国際学園高等学校 | 疾患原因となるアミノ酸変異の解析 |
| | 鹿児島県立国分高等学校 | ゴマダラチョウとヤドリバエの命の駆け引き |



一般社団法人

Glocal Academy

ポスター発表

①人文科学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|--------------|--|
| 第1部 | 熊本県立済々黌高等学校 | 自己肯定感の意義とその向上のために |
| | 山形県立山形東高等学校 | キャッチコピーを利用して環境問題への認知度を高める探究 What is "catch copy" and how can we use it effectively in the problems of environment? |
| | 新潟県立津南中等教育学校 | 「備える」を当たり前 |
| | 花園高等学校 | 高校生の恋愛における告白の成功・失敗の要因 |
| 第2部 | 公文国際学園 | 煤竹の継承に関する考察～南部鉄器・庄川挽物木地を先行事例として～ |
| | 高知学芸高等学校 | パブリックアートにおける表現の自由の境界線 ～サン・チャイルドを例に～ |
| | 東京都立大泉高等学校 | ライトノベルに登場するアーキタイプの特徴 |
| | 栃木県立矢板東高等学校 | 栃木県のサメ食文化の変容と地域性 |
| 第3部 | 兵庫県立小野高等学校 | 小野市で外国人と良い関係を築こう！ |
| | 宮城県仙台二華高等学校 | 水の精ウンディーネとヨーロッパ世界 |
| | 鳥取県立倉吉東高等学校 | 倉吉弁に古語は残っているか |
| | 学校法人神村学園高等部 | 観葉植物と人との関わり ～精神への影響～ |

②教育

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|--------------|--|
| 第1部 | 近畿大学附属高等学校 | 高校校則のあり方について |
| | 京都市立西京高等学校 | 言葉と意欲の向上の関連性 |
| | 長崎県立長崎東高等学校 | 児童・生徒の恐怖感を和らげ、主体性を育む平和教育の手法 |
| | 栃木県立佐野高等学校 | ハンセン病差別問題をテーマとする授業におけるアクティビティの考案とその有用性に関する考察 |
| 第2部 | 東京学芸大学附属高等学校 | 授業における教師による雑談の教育効果についての考察 |
| | 佼成学園女子高等学校 | 教員不足改善のために高校生ができること What high school students can do to improve the shortage of teachers |
| | 山梨県立甲府西高等学校 | 日本の平和教育の課題と解決策 |
| | 米子北斗高等学校 | ICT技術を用いた、新時代に必要な新しい教育コンテンツとは |
| 第3部 | 新潟県立津南中等教育学校 | 吃音者への合理的配慮の検討 |
| | 鹿児島県立国分高等学校 | 外国人の子に学びの場を～鹿児島グローバル大作戦！～ |
| | 鹿児島県立甲南高等学校 | 鹿児島県が外国人技能実習生の日本語支援に関して抱える問題 |
| | 大阪府立岸和田高等学校 | 泉佐野市に塾の助成金を出してもらおう！ |
| | 三重県立津西高等学校 | 授業中の居眠りを防ぐために ～黄金の15分の重要性～ |



一般社団法人

Glocal Academy

③社会科学・地域課題

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|----------------|---|
| 第1部 | 金沢大学附属高等学校 | 金沢でオーバーツーリズムを起こさないために |
| | 成蹊高等学校 | 子宮頸がんワクチンをめぐる新聞報道 |
| | 宮城県仙台二華高等学校 | ベトナム塩害による経済的被害改善のための塩トマト導入の提案 |
| | 東京学芸大学附属高等学校 | 中央林間地域の住宅地化と田園都市線延伸の関係性の分析 |
| 第2部 | 広島女学院高等学校 | 神石高原町の無医地区について |
| | 追手門学院大手前高等学校 | 人の暮らしに寄り添い、社会貢献に向けたシステム構築 |
| | 長崎県立長崎東高等学校 | 長崎市におけるウクライナ避難民支援の改善策 |
| | 島根県立松江北高等学校 | 石見神楽の娯楽性についての研究 |
| 第3部 | 鹿児島高等学校 | 最低賃金の地域格差と賃金格差についてのアンケートによる一考察 |
| | 鹿児島県立鹿児島中央高等学校 | 県境を越えた融合が生み出す伝統(的)工芸品産業振興と地域活性化の可能性 |
| | 鳥取県立鳥取東高等学校 | 空き家を活用して地域活性化につなげるための提案 |
| | 鹿児島県立国分高等学校 | 若者と高齢者で作る持続可能な農業～LET'S ACTIVE 市 near～ |
| | 名城大学附属高等学校 | 「外部からの視点」が地域住民のシビックプライドに与える影響 — 兵庫県丹波篠山市、愛知県津島市を事例として — |

④環境・化学・数学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|------------------------|--|
| 第1部 | 鳥取県立鳥取西高等学校 | 環境と肌 ダブルで優しい日焼け止め作り |
| | 山梨県立甲府西高等学校 | ホルムアルデヒドの吸収量が多い観葉植物ランキング |
| | 広尾学園高等学校 | 待ち行列理論を用いた予約システム導入に関する評価 |
| | 横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 | 枯れ葉くんの再雇用 ～枯れ葉は紙になれるのか～ |
| 第2部 | 高槻高等学校 | ゴミ箱検索サイト「T-map」の開発 |
| | 高槻高等学校 | 不特定話者識別システムの開発 |
| | 熊本県立鹿本高等学校 | 廃棄されているワインの搾り滓で歯磨き粉を作る |
| | 広島県立広島国泰寺高等学校 | アサリを介したマイクロプラスチック摂取を防ぐための砂抜き時間の解明 |
| 第3部 | 長崎日本大学高等学校 | 使い捨てカイロ及び使用済みマスクのリサイクル方法の可能性の検証 |
| | 宮城県仙台二華高等学校 | エコロジカルサニテーショントイレにおける殺菌のメカニズムについて |
| | 鳥取県立倉吉東高等学校 | 酒粕の機能特性を生かした化粧水開発について ～副産物の酒粕を使って地域創生に繋げる～ |
| | 宮崎県立小林高等学校 | 環境にやさしい建築～食品トレーを断熱材に活用できないか～ |
| | 八千代松陰高等学校 | ライフサイクル CO2 総排出量における電気自動車の優位性 |



一般社団法人

Glocal Academy

⑤生物学

| | 学校名 | 研究タイトル |
|-----|------------------------------|--|
| 第1部 | 安田学園高等学校 | マルハナバチの死骸排除行動はコロニーの発達段階や死骸の雌雄に応じて死骸の認知過程が変化する文脈効果を示す |
| | 岐阜県立岐阜高等学校 | 龍門山におけるギフチョウの遺伝的由来を探る |
| | 芝浦工業大学柏中学高等学校 | 様々な酵母菌による発酵速度の違い |
| | The American School in Japan | Lotus Don't FRET |
| 第2部 | 鹿児島県立甲南高等学校 | 色覚異常を持つ方々の色識別補助、世間の色覚異常への理解度向上に関する研究 |
| | 鹿児島修学館高等学校 | 詐病を巡る日本の精神科医療の課題に対する見直し方法についての考察 |
| | 東京都立大泉高等学校 | 油を塗布すると毛髪の引張強度の変化はどうなるのか？ |
| | 鹿児島県立鶴丸高等学校 | 消化酵素の加熱による活性の変化 |
| 第3部 | 山梨県立甲府西高等学校 | アマゴの生育環境に御勅使(みだい)川が適しているか環境調査から読み解く |
| | 鹿児島県立国分高等学校 | 鹿児島県における淡水性エビ類の最近の分布および抱卵状況 |
| | 鹿児島修学館高等学校 | 日本の小児製剤開発に貢献するために |
| | 志學館高等部 | ヤンバルトサカヤスデの発生要因と駆除方法 |
| | 宮崎県立宮崎大宮高等学校 | ブラックバスを養殖魚の餌に |



